

棚POWER[®] 操作テキスト
データ登録・移行編 (Ver17.00)

2010年6月

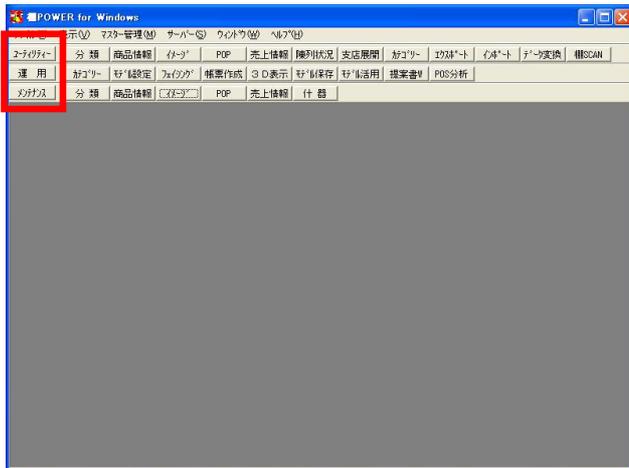


目次

1. 棚 POWER のデータ概要 -----	1
棚 POWER のデータについて.....	1
2. 各基本データの単一登録方法（メンテナンス機能） -----	4
分類登録時のポイント	4
分類情報の登録	6
分類の括り モデル検索キー 分類名 拡張分類	
商品情報の登録	7
必須項目 分類属性と商品情報の関係 分類絞込検索	
商品情報を連続して登録する方法	9
イメージの登録	12
商品情報とイメージの関係 解像度 登録面 サイズ修正 POP	
POP の登録	16
3. 各基本データの複数一括登録方法（ユーティリティー機能） -----	18
分類情報の一括登録	18
Excel 設定	
商品情報の一括登録	21
出力形式 データ選択 メンテナンス日	
イメージの一括登録	26
ファイル形式（JAN コード・フォルダ化） 解像度自動調整	
4. 各基本データの削除方法・修正方法 -----	28
棚 POWER における削除について	28
論理削除と物理削除 情報フラグ	
データの削除方法（単一）	29
分類情報・商品情報	
データの複数一括削除方法（メンテナンス機能）	30
データの複数一括削除方法（ユーティリティー機能）	31
分類情報 商品情報 イメージ	
物理削除方法.....	32
マスター整理 商品情報・イメージ削除	
基本データの修正方法	33
一括修正 分類属性不一致 商品属性エラー情報	
5. 棚 POWER のデータ移行、配信方法 -----	37
全データの移行	37
DB チェック バックアップ・リストア処理	
一部データの移行・配信	39
エクスポート インポート	

棚POWERを使用する上で必要不可欠な各種データの概要と登録方法を学習します。
 まず、棚POWER画面の構成を確認しましょう。

マスターとは



1. 棚POWERは大きく3つの機能に分かれています。

ユーティリティ :

登録済みデータを外部に出力したり、外部のデータ (Excel や業界標準データ) を効率よく取り込むための機能です。

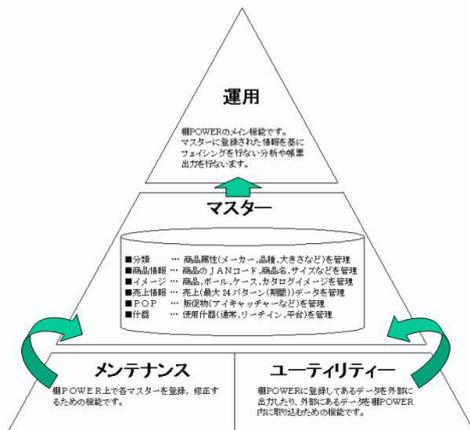
運用 :

棚POWERのメイン機能です。登録したデータを基に棚割作成を行ない、帳票出力や分析を行ないます。

メンテナンス :

棚POWER上で商品情報やイメージなどの各データを登録、修正、削除するための機能です。

2. これら3つの機能を図で示すとこのようになります。



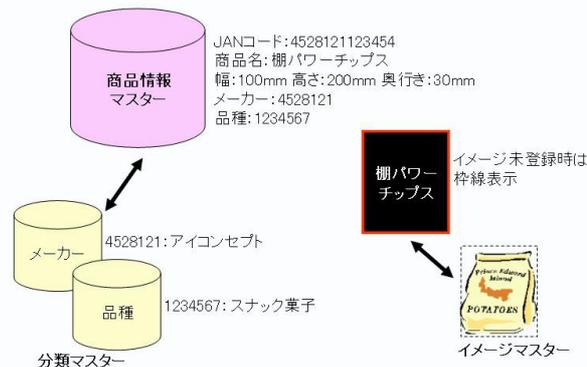
「メンテナンス」「ユーティリティ」といった各マスターを支える機能があり、その上にマスターが存在します。

これらのマスターがあってはじめて「運用」が行なえるという意味で、マスターの上に「運用」という位置取りになります。

マスターとは、基本となるデータのことです。

棚POWERには大きく分けて「分類、商品情報、イメージ、売上情報」と、4つの「マスター」が存在します。

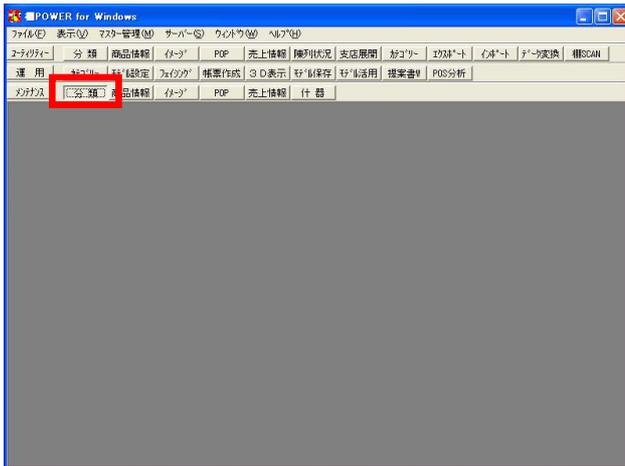
各マスター概要



3. 棚POWERで棚割作業を行なうためには各マスターの構築が前提となり、少なくとも各マスターの必須項目は全て登録する必要があります。また、効果的な資料作成を行なうためには定期的なメンテナンスでマスターを更新していく事が重要です。

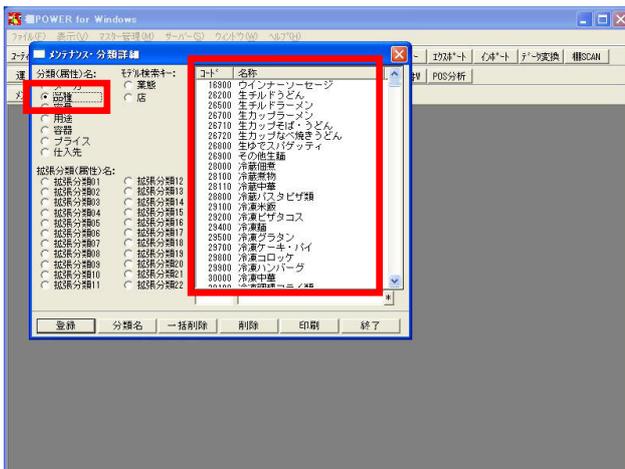
各マスター項目仕様は、ヘルプメニュー・基本マニュアルより『棚POWER 基本マニュアル』の各項目を確認してください。

棚POWERで利用するマスターのうち、初期段階で特に重要な分類、商品情報、イメージを紹介します。



4. まず、分類マスターについては、メンテナンス・ 分類 より画面を参照します。

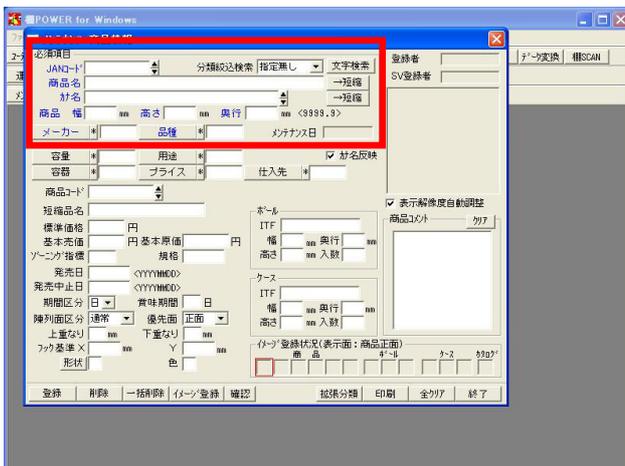
「商品を陳列する際にメーカーや品種から商品を絞り込む」「品種別に商品の分布を確認する」など棚POWERでは分類属性を切り口に商品情報を扱います。この分類属性を管理するのが分類マスターです。正確には、分類属性コードはこの後説明する商品情報マスターに必須項目として入力しますので、分類マスターは各分類コードと「対」になる名称を管理するマスターとも言えます。



5. 登録済み分類は、分類名称をクリックするとその一覧が右側に表示されます。

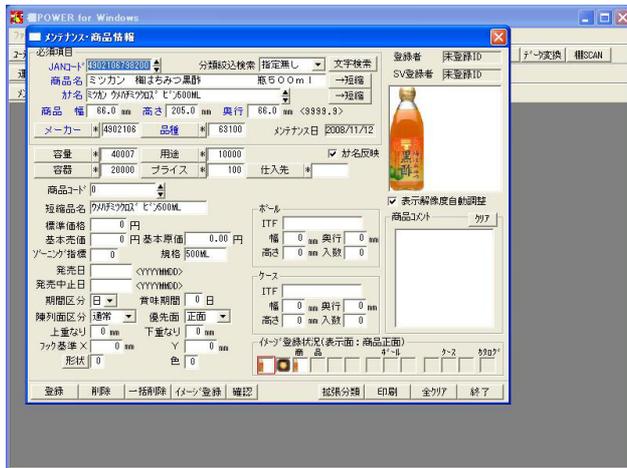


6. 次に、商品マスターです。メンテナンス・ 商品情報 より画面を参照します。

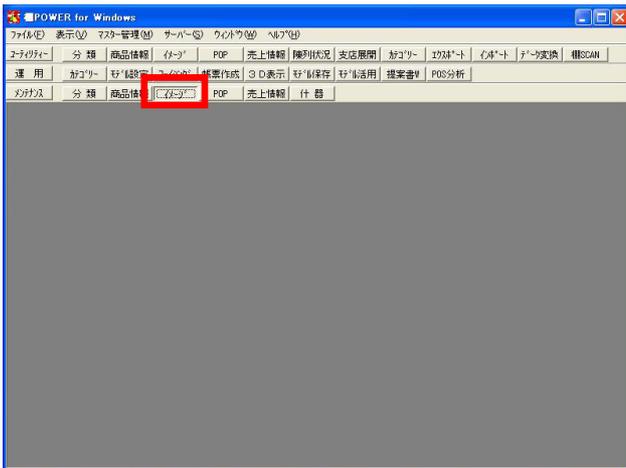


7. 棚POWERでは、このように多くの情報を登録できるようになっています。商品を棚に陳列した状態を再現し、様々な情報を帳票に出力して活用することができます。

中でも、左図枠内の必須項目（サイズ等）は重要ですので、導入段階から登録できるよう準備していきましょう。



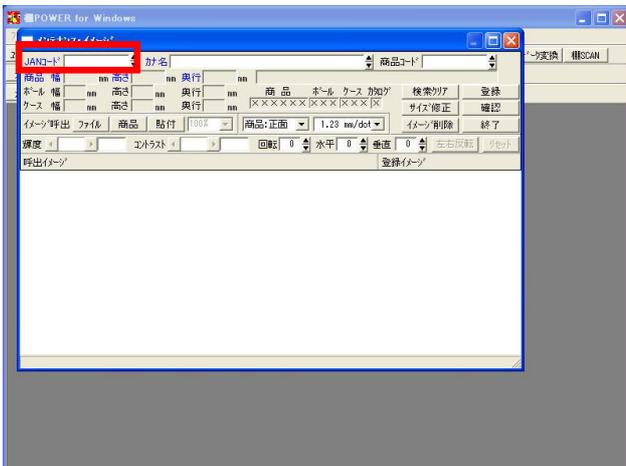
8. 登録済み商品のJANコードを入力し、Enterキーを押下すると該当の商品情報が表示されます。



9. 次に、商品画像を管理しているイメージマスターです。メンテナンス・イメージより画面を参照します。

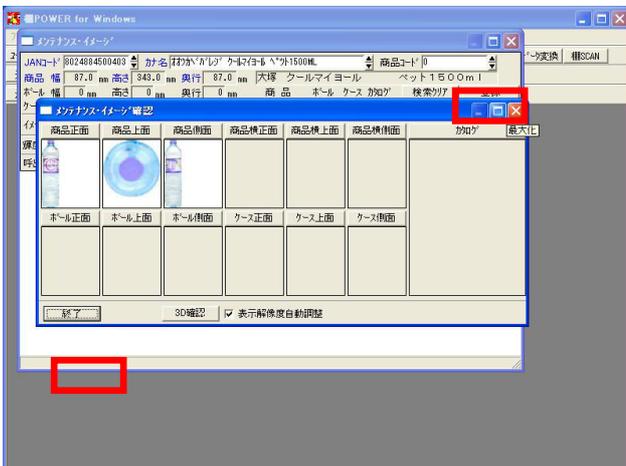
イメージは、先に説明した商品マスターのJANコードと結びつけて登録される情報ですので、登録は「商品情報 イメージ」の順で行なう必要があります。

商品画像が無くても商品サイズ登録が正確に行なわれていればワイヤーフレーム表示で棚割作業は可能ですが、視覚的に再現できるという面からイメージマスターを整備されることを推奨します。



10. 正面画像だけでなく、上面や側面、ボールやケース、カタログ用の画像も登録し、活用が可能です。

JANコードを入力後Enterキーを押下すると、既存商品情報が表示されます。



11. 確認 をクリックすると、現在登録されているイメージを確認できます。

確認後は 終了 をクリックし、画面を終了します。

登録前の検討項目について

入手可能なデータは無いか確認しましょう

- ・自社の別拠点の既存棚POWERデータ
→社内データをそのまま流用する事で最も簡単にデータを準備する事ができます。
- ・自社ホストサーバーに格納されている既存データ
→商品マスター、カタログ用イメージ、出荷データ etc
- ・取引先との相互のデータ提供(新商品情報などをデータでやりとり)
→取引先が利用されているシステムにより、下記のようなやりとりが考えられます。
 - ・棚POWER...棚POWER専用の形式で
 - ・他社棚卸システム...業界データ(プラネット・SPスクエア)形式で
 - ・棚卸システム未使用...CSV, Excel, 固定長形式、カタログ用イメージなどで
- ・MDBセンターなど既存のサービスを利用
→自社製品以外はMDBセンターからデータを取り込んで利用するなど

12. 実際にマスター登録を始める前に、
- ・データの準備方法
 - ・データの登録方法
- について、効率的に行なうにはどうすればよいか検討する必要があります。

棚POWERの導入にあたりマスターを最初からすべて登録するのは大変な作業です。まず、既存データで活用できるものは無いかをよく確認します。

その際、JANコード、商品名、商品サイズ(幅×高さ×奥行)などがデータとして存在すれば有効ですが、全ての項目が揃わなくても手入力で補完すれば十分データとして活用できます。

マスターの登録方法には大きく2つの方法があります。

商品マスターの場合なら、カタログなどを見ながら単品毎に入力する方法と、Excelなどでファイル編集してから一括で複数商品分の情報を取り込む方法です。分類やイメージも同様に、単一、複数一括と2通りの登録が可能です。

ここからは、各マスターの登録時のポイントとメンテナンス画面を利用した基本的な登録方法を学習します。

分類登録時のポイント

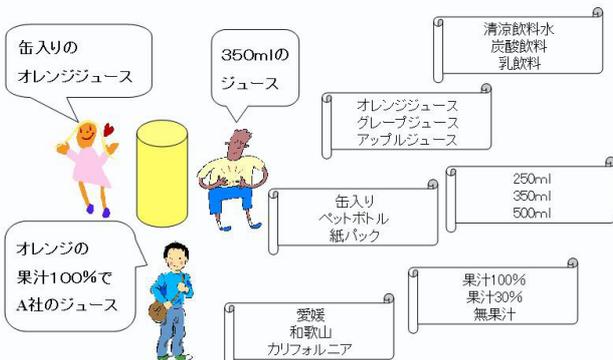


13. まずは分類マスターです。
メンテナンス・ 分類 をクリックします。

分類属性の1(メーカー)~6(プライス)、仕入先、拡張種類の01~22を登録することができます。

具体的には、メーカー、品種、容量、用途などが考えられます。

括りの種類も大きさも様々



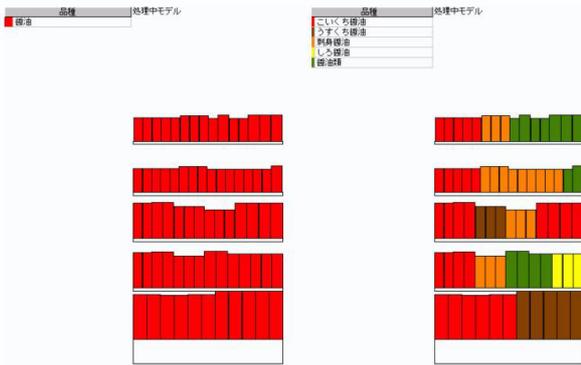
同じ商品を購入する場合にも人によって選択理由が異なる

14. これらの分類を登録するにあたり、括りの種類や大きさが重要となります。

後々、効果的に売場を検証するためには、生活者ニーズに沿った括りの設定が必要です。また生活者のニーズの変化に合わせて見直しを行なっていくことも重要です。

括りの種類をたくさん持つ事で、様々な視点での分析検証が可能となります。

括りの大きさが重要



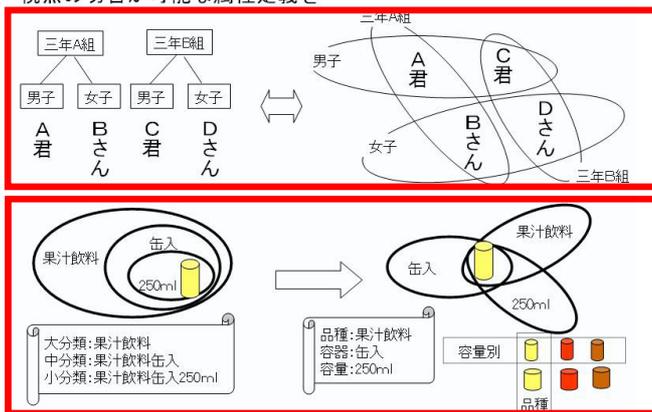
15. また、括りの大きさも重要です。

たとえば、醤油売場の分析を行なった際に分類が「醤油」であれば、売場全体が「醤油」のみとなりますが、「濃口醤油」「薄口醤油」などと細分化すれば、適切なスペース配分などの分析が可能となります。

単品での順位確認はPOSデータを見れば確認できますが、的確な括りの大きさを設定しておくことによりカテゴリー単位で売場を検証できることになります。

「生活者は一つの売場で10個程度の属性を認識できる」といわれていますので、括りの大きさの参考としてみてはいかがでしょうか。大きすぎず、小さすぎない括りというのがポイントです。

視点の切替が可能な属性定義を



必要に応じて、「品種+容器+容量」や「品種+容量」の登録も有効

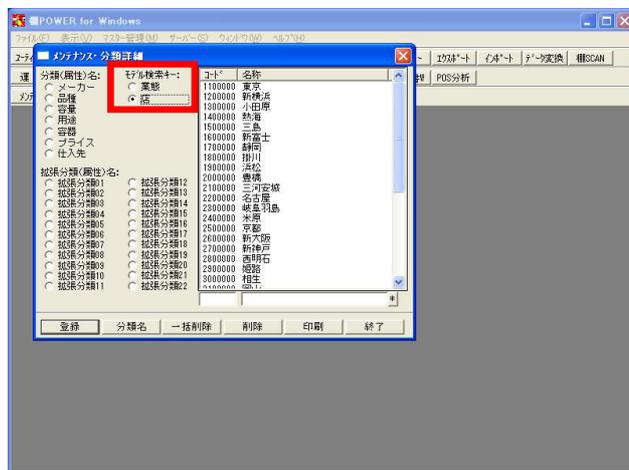
16. カテゴリーからサブカテゴリーへと階層的に属性を振り分ける際は、大・中・小分類とだんだん細分化するだけでなく、それぞれの階層で絡みあう属性分けしておくことで、視点を切り替えて検証することが可能となります。

左図(上)は学校のクラスと男女別で分類した例です。A君とBさんは三年A組、C君とDさんが三年B組となっています。別の視点で見ればBさんとDさんが女子とも言えます。

具体的な売場の例で説明します。小分類が「果汁飲料缶入250ml」という場合と、品種が「果汁飲料」、容器が「缶入」、容量が「250ml」というのは全く別物です。

左図(下)右の例なら、「250ml」という属性に含まれる商品は、果汁飲料だけでなく炭酸飲料などが含まれます。

このことにより、分析を行えば「250ml」という属性の中でどのようにその商品が売れたかという検証ができます。

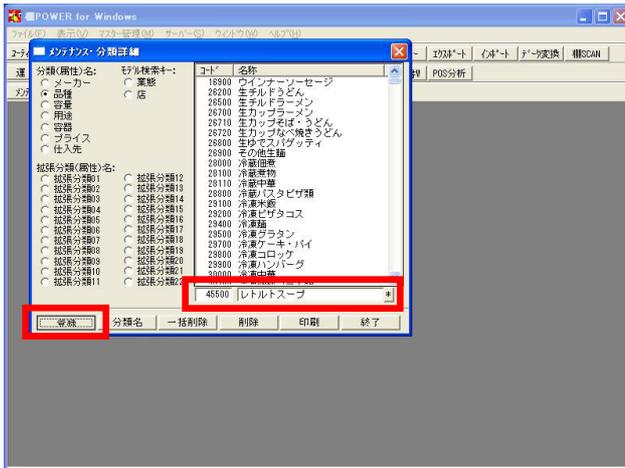


17. 分類マスターで管理するものの1つとして、モデル検索キーがあります。

業態や店といった項目です。これは、棚割モデルを管理するためのマスターです。

モデル検索キーに店を登録することで、モデル単位の管理だけでなく、モデル採用店舗のパターン管理や、星取表などに活用することも可能です。

分類マスターの登録（単一）

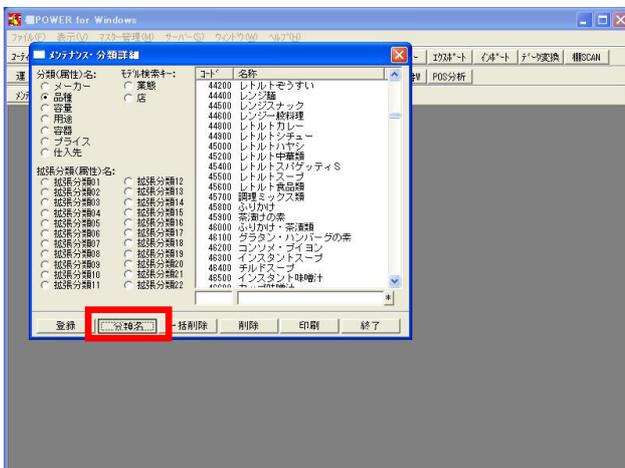


18. 分類マスターの登録方法を確認します。

メーカーや品種などの分類が存在します。例えば、「品種：レトルトスープ」を追加登録したい場合は、「品種」を選択します。

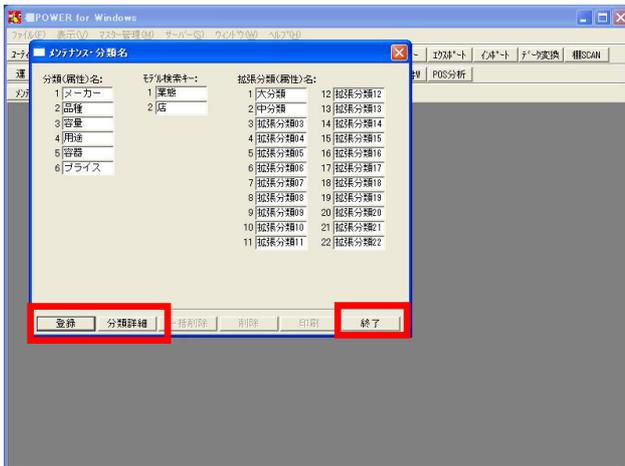
コード：45500，名称：レトルトスープ を登録します。
画面右下の小さなテキストボックスへコード番号を入力、続けて右横の大きなテキストボックスへ名称を入力します。
なお、コード入力後キーボードの TAB キーを押すことで右側のテキストボックスへカーソルが移動します。

登録 ボタンをクリックで登録完了です。リストボックスに登録済のコードと名称の一覧が表示されます。複数登録する場合は、この作業を繰り返します。



19. 各分類やモデル検索キーはその分類項目の名称自体を変更することができます。

分類名 をクリックします。

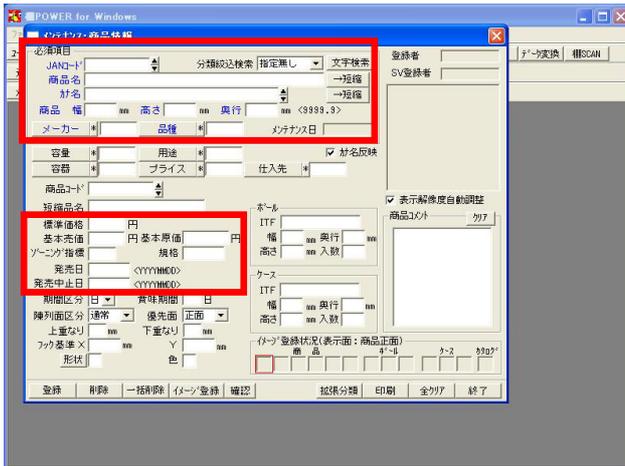


20. 各テキストボックスの名称を変更（例えば「拡張分類01」を「大分類」、「拡張分類02」を「中分類」など）し、必ず登録 をクリックします。

分類詳細 をクリックすれば、各分類（属性）の一覧に切り替わります。

終了 でメンテナンス・分類詳細画面を終了します。

商品情報マスターの登録（単一）

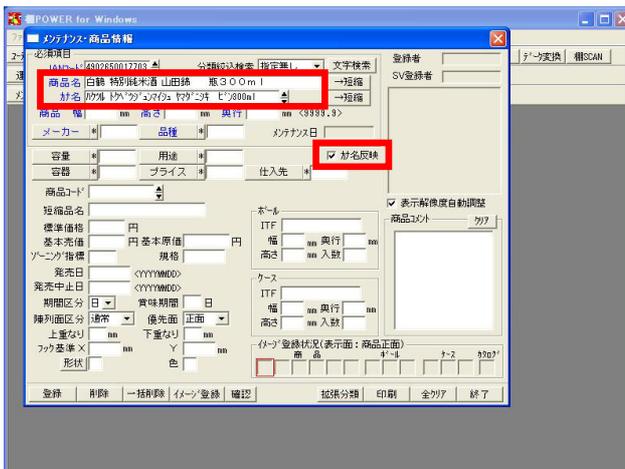


21. 次は、商品マスターについて確認します。
メンテナンス・商品情報 をクリックします。

商品マスターは最も基本となるマスターです。
JANコード、商品名、商品サイズなど棚割を行なう上で不可欠な情報を管理しています。

また、標準価格や基本売価など在庫金額のシミュレーション、終売商品を確認するための発売中止日などの日付の登録も可能です。

登録されたほぼ全ての項目を帳票などへ出力できます。

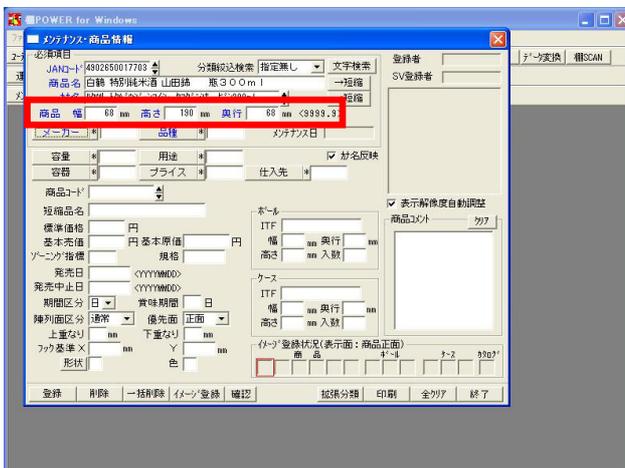


22. 商品マスターを登録します。

新規登録するJANコードを入力します。

青文字で表示されている項目が必須項目です。必ず入力してください。それ以外の項目は必要に応じて利用します。全ての項目を埋める必要はありません。

JANコードを入力後、商品名を入力します。
この時「カナ名反映」にチェックが有効になっていれば、カナ名の欄も自動で入力されます。
商品名入力時に変換や入力のミスがあった場合には、後でカナ名も修正するようにしてください。



23. サイズの登録を行ないます。

単位はmmで、陳列面が正面になるように幅、高さ、奥行きを登録します。

商品サイズについては、主に陳列する面を正面ととらえ、サイズを登録します。

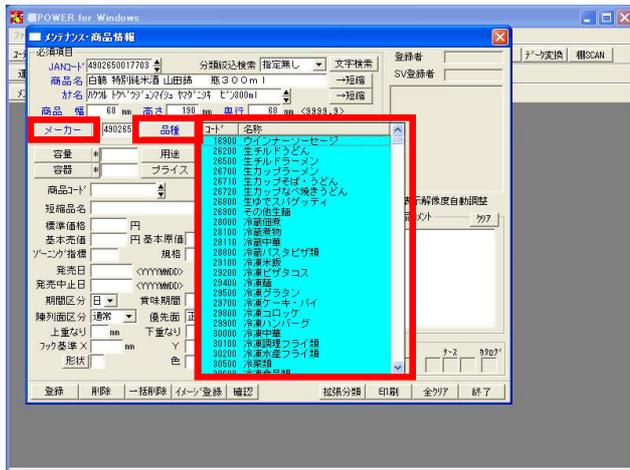
カタログなどのサイズ表記は「幅×高さ×奥行」の順番が違う場合があるので注意が必要です。
正面の規定が社内で統一されていないと、陳列する毎に陳列面を変えなければならないといった使いにくい状況になります。

商品正面の捉え方について

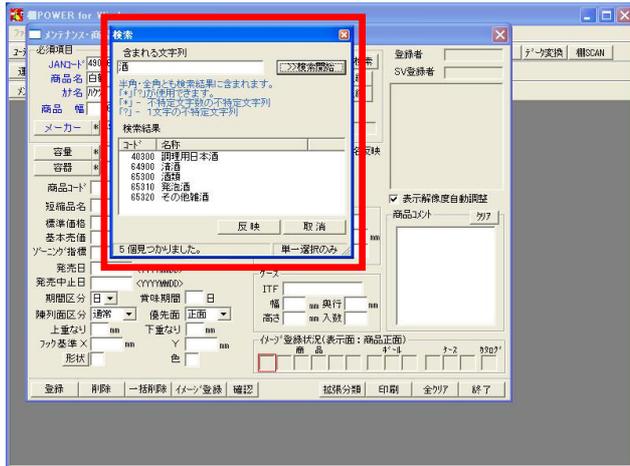


24. 例えば、普通に商品を置くと上面に商品名が表示されているカップ麺を上から見て正面と捉えるか、横から見て正面と捉えるかということです。

帳票への出力時にも影響がでますので、ぜひ統一のルールを決めてから登録作業を行なってください。



25. メーカーと品種コードを登録します。
 メーカー、品種 どちらもクリックすると、あらかじめ分類マスターに登録されている分類コードと名称の一覧が表示されます。
 このリストから該当する分類を選択します。



26. * ボタンをクリックすると検索が可能です。



例えば「酒」と入力して 検索開始 をクリックすると、名称に酒を含んだ品種が一覧表示されます。

該当するものを選択して 反映 をクリックします。

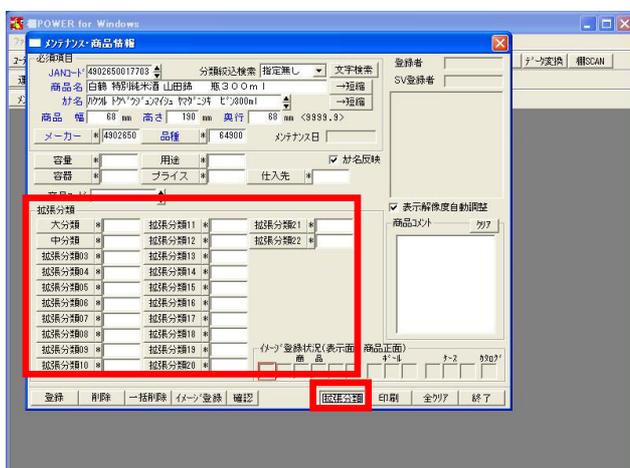
分類属性1,2と商品情報の関係



27. 分類属性1の「メーカー」コード、分類属性2の「品種」コードは棚POWER内で、商品1つ1つに割り振るべき必須項目と位置付けられています。

商品情報の分類コードは、分類マスターを参照しているため、先に分類マスターを整備してから商品マスターを登録するとスムーズです。

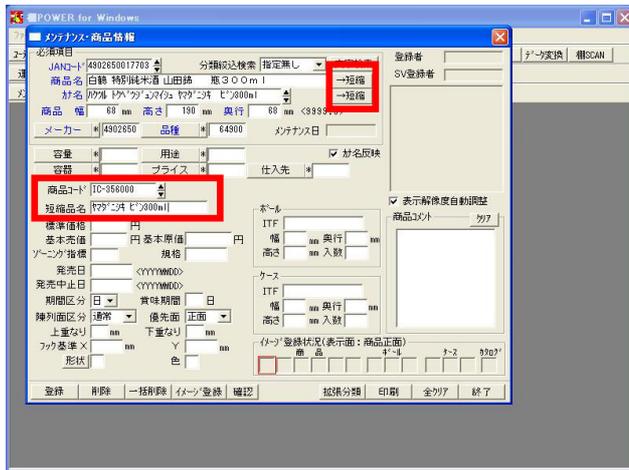
「分類の括りの種類と大きさ」でも重要性を説明していますが、商品情報に複数の分類属性が登録されている事で、生活者起点での棚割がしやすくなります。



28. 分類属性として利用できる項目は全部で28あります。
 すべての分類の登録状況を確認するため 拡張分類 をクリックします。

全社でうまくこの分類属性を利用するためには、基本的項目は社内共通とし、「拡張分類10」以降の番号は支店毎に違う内容を設定して使ってよい。などのルールを決めると良いでしょう。せっかく正式に登録した分類属性を、誤って別の内容で上書きしてしまうといったミスを防ぐ事ができます。

もう一度 拡張分類 をクリックすると、もとの画面に戻ります。

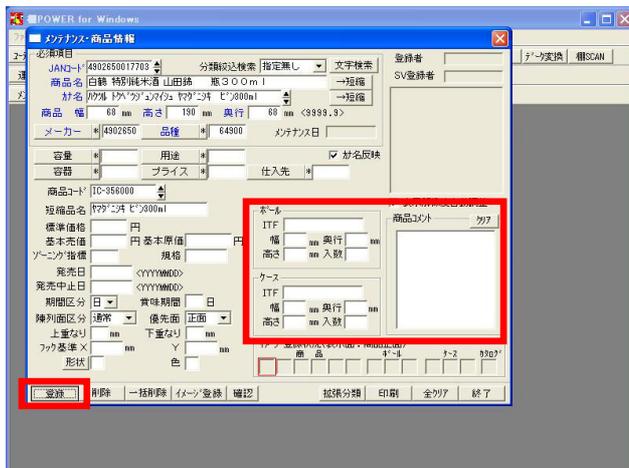


29. 他、必須ではありませんが登録すると便利な項目を紹介します。

「商品コード」欄には、自社の商品コードなどを登録できます。JANコードと同様に、チェックデジットを通るコードであればバーコード出力も可能です。

短縮品名に、商品名やカナ名に入力した内容の一部を簡単に反映できます。右側にある **短縮** ボタンをクリックします。必要があれば直接修正します。

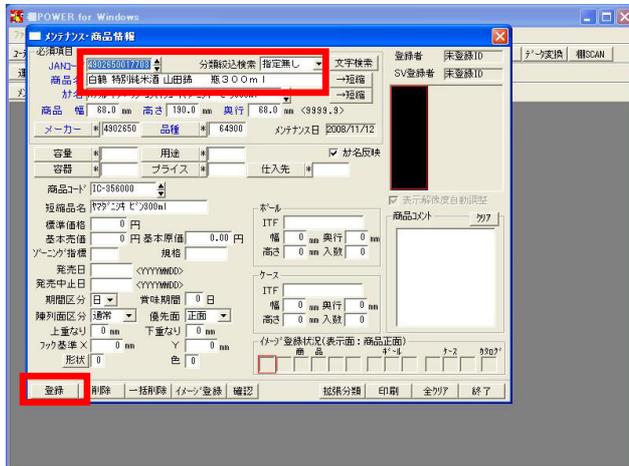
商品名、カナ名、短縮品名と3つの名称の登録が可能です。それぞれに登録時のルールを決定する必要があります。商品名は「メーカー名+商品名+容量」、短縮品名は「規格+商品名」にするなどです。これにより、統一感のある帳票作成が可能となります。



30. ボール入数、ケース入数を入力しておけば、フェイシング時の在庫数を入数でまらめられます。

帳票へ出力可能な商品コメントは全角文字で最大100文字の登録が可能です。

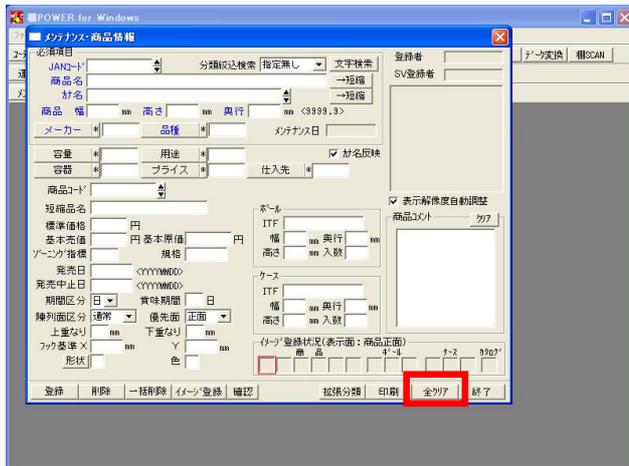
必須項目 + の入力が完了したら **登録** をクリックします。



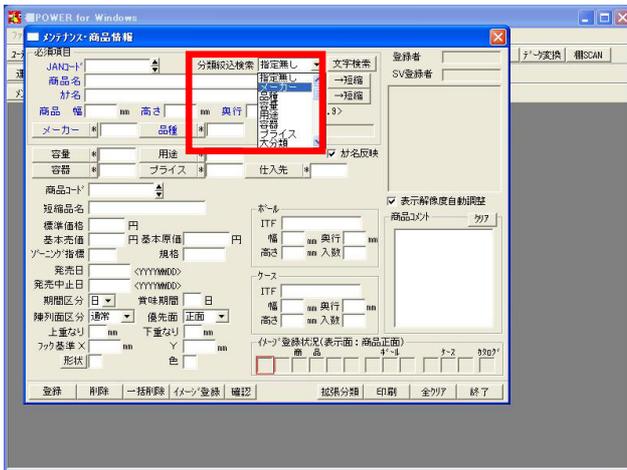
31. 次に、商品マスターを連続して登録する方法です。

例えば、同シリーズの味違い商品や容量違いの商品など、登録内容を流用できる場合があります。

続けて登録を行なう場合には、画面上に先ほど登録した商品の情報が残っていますので、JANコードや商品名の一部など変更が必要な箇所のみ修正後に **登録** をクリックします。



32. 表示されている情報と全く違う情報を入力する際には、**全クリア** をクリックすると画面表示がクリアされ入力しやすくなります。



33. 次に、分類絞込検索について確認します。

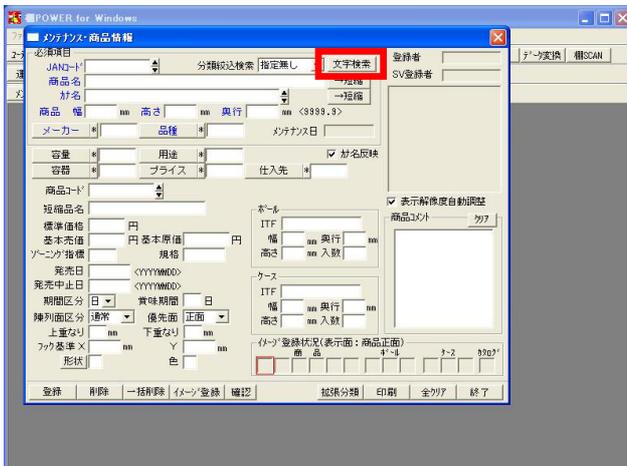
登録済みの分類を利用して商品情報を絞り込み、スピンボタンをクリックすることで絞り込んだ範囲の商品検索を行なえる機能です。

絞り込む分類を選択します。



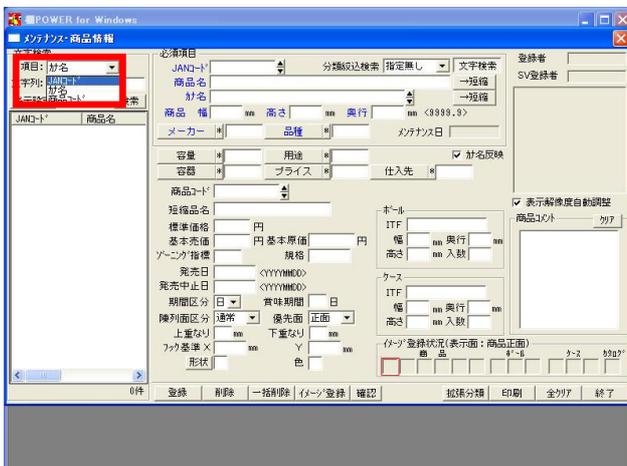
34. さらに、分類「メーカー」から該当のメーカーを選択します。

その後、JANコード欄のスピンボタンをクリックすると、該当メーカーの商品のみが検索できます。



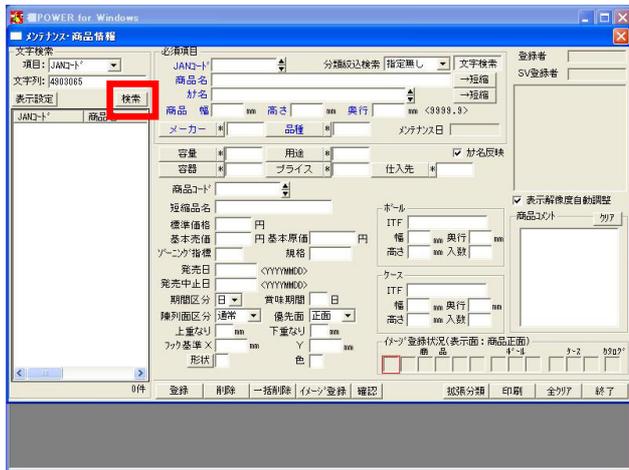
35. JANコードや商品名の一部しか分からない場合や、複数商品を一覧で表示したい場合は、文字検索が便利です。

検索方法は、商品リスト・検索・[文字検索]と同じです。



36. 文字検索 をクリックします。

項目からJANコード、カナ名、商品コードのいずれかを選択します。



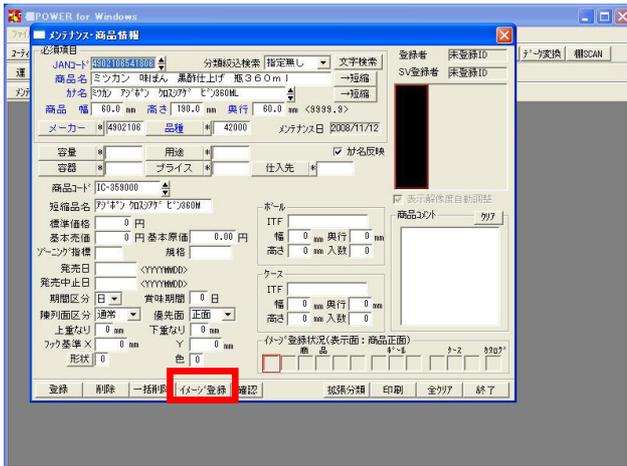
37. 文字列に各項目の一部（JANコードならJANコードの一部）を入力し、**検索** をクリックします



38. 表示する項目を変更したい場合は、**表示設定** から設定可能です。

表示したい項目を選択可能項目から選び、表示項目に含めます。最大10項目まで選択可能です。

イメージマスターの登録（単一）

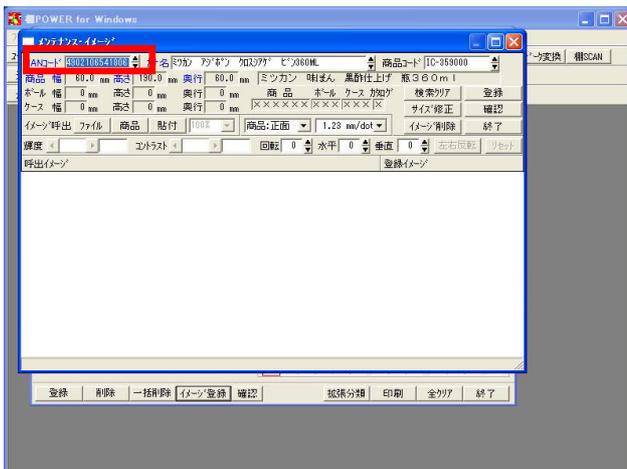


39. 次は、イメージマスターについて確認します。

イメージマスターへの画像の登録は、JANコードをキーに商品情報とイメージを結び付けている棚POWERの構造上、商品情報が登録されていなければなりません。

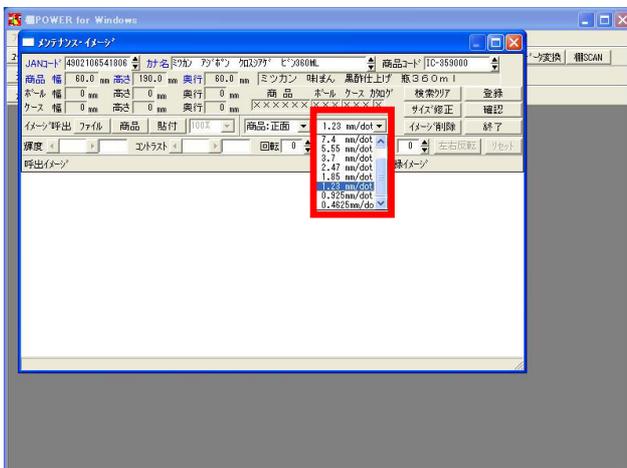
メンテナンス・商品情報から確認しましょう。イメージを登録したい、該当のJANコードを入力し、Enterを押下します。

商品情報登録直後など、商品情報が表示されている状態で「イメージ登録」をクリックすると該当商品のイメージを続けてすぐに登録可能です。



40. すでに商品情報は登録済みで、直接イメージ登録から作業を行う場合は、メンテナンス・「イメージ」をクリックし、メンテナンス画面を表示します。

この場合は、JANコードを入力してEnterキーを押すと商品名やサイズを表示します。



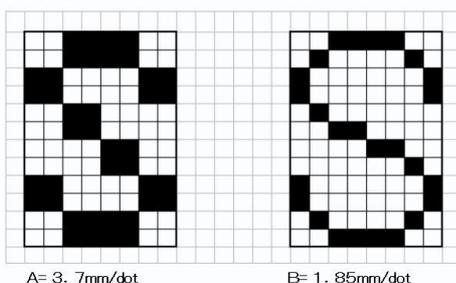
41. イメージマスターは指定した解像度と商品サイズを元にリサイズをして取り込みを行いません。

解像度とは、画質の滑らかさや、きめ細かさを表す尺度のことです。

このときに指定する解像度について説明します。

棚POWERでは「mm/dot」という単位を用いますが、これは「一つの点で mmを表す」という意味です。

イメージ登録解像度について



A= 3.7mm/dot

B= 1.85mm/dot

42. 標準は1.23mm/dotで、1.85のように数字が大きくなると画像は粗く、0.925のように小さくなると画像は綺麗になります。

綺麗になるほど画像サイズは大きくなりますので注意が必要です。イメージ解像度によって画像が粗いか密かが決まります。

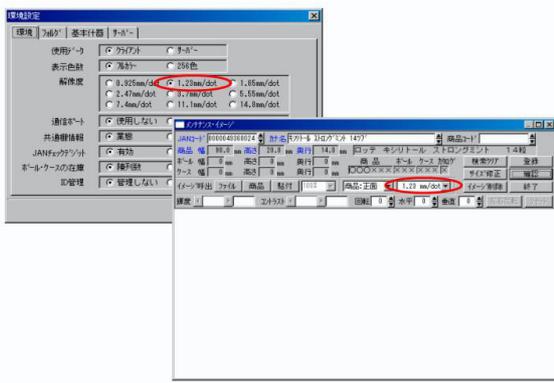
解像度の違いによるイメージの比較



43. 一般的にポケット菓子などの小さめの商品は0.925が最適となり、さらに小さなガムや電池などの商品は0.4625も使用可能です。逆に大きな商品が主体であれば1.85などにするとよいといわれています。

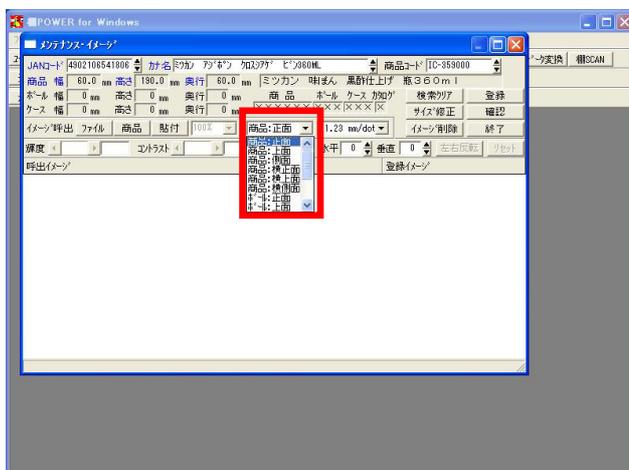
ただし、同等サイズの商品なのに解像度が異なると棚割図などの帳票出力時にぼやけた商品ときれいな商品が混在するまばらな状態になりますので、基本的に解像度は主体となる商品の大きさで統一することを推奨します。

解像度の設定について



44. メンテナンス画面上に最初に表示されるのは、環境設定であらかじめ設定した解像度です。

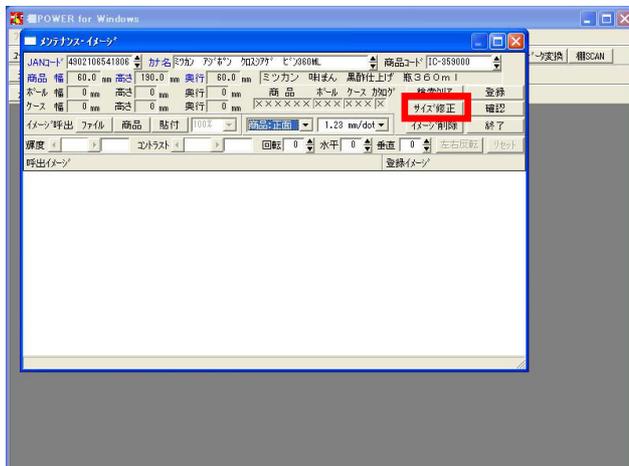
ファイルメニュー・環境設定をクリックして確認します。自社の商品の大きさなどを参考に決定した解像度を環境設定ではじめに登録しておくとういでしょう。



45. メンテナンス・イメージ画面を開いた時、登録面の指定は「商品：正面」となっています。

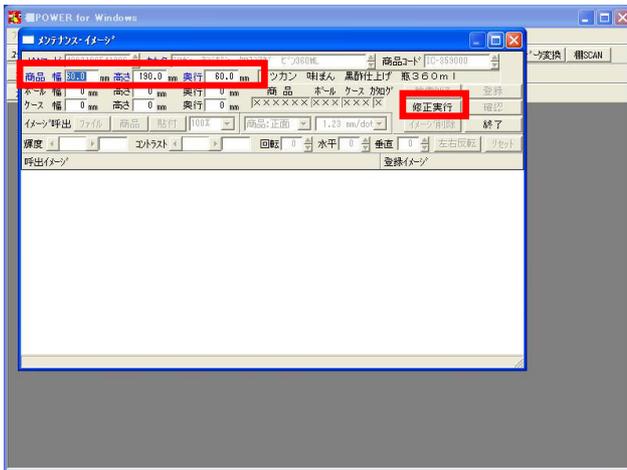
基本的には、商品情報の説明でも出てきましたが、陳列時に正面として陳列する面を「正面」に登録すると陳列し易くなります。

商品情報の商品サイズ（幅・高さ・奥行）とも関連がありますので、ルールに従い注意して登録してください。

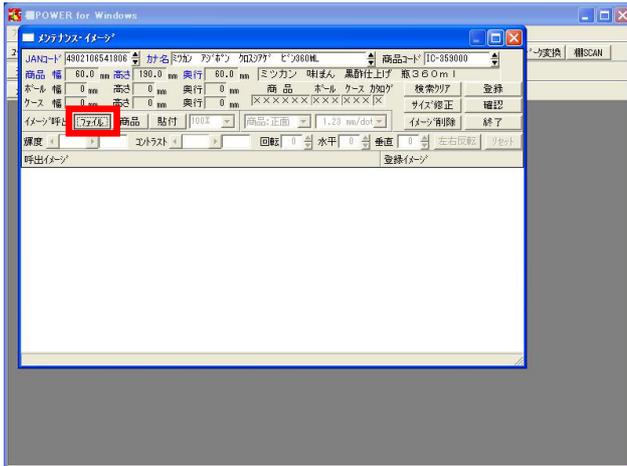


46. 幅と高さを誤って逆に登録していたなど、商品マスターのサイズ登録の誤りをイメージ登録時に発見することがあります。

その際には、サイズ修正 をクリックします。

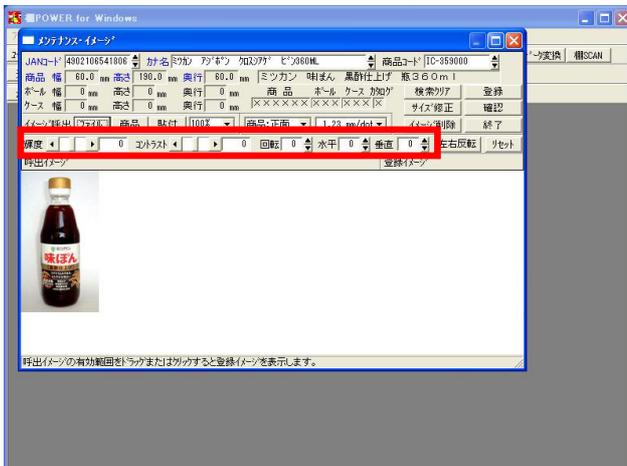


47. 各サイズ欄を編集し、修正後に 修正実行 をクリックします。

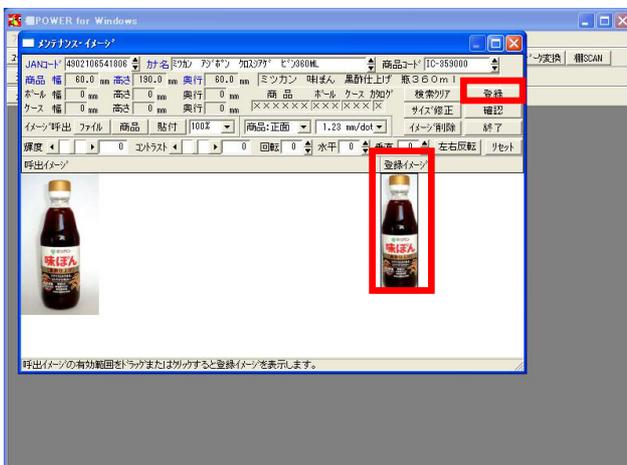


48. ファイル をクリックすると「ファイルを開く」画面が表示されますので、登録したい画像ファイルを選択して開きます。

イメージのファイルサイズについて
 棚割システムに利用するイメージのファイルサイズは決して高解像度である必要はありません。ビットマップファイルの場合で、1面あたり10KB～100KB程度を目安に用意してください。



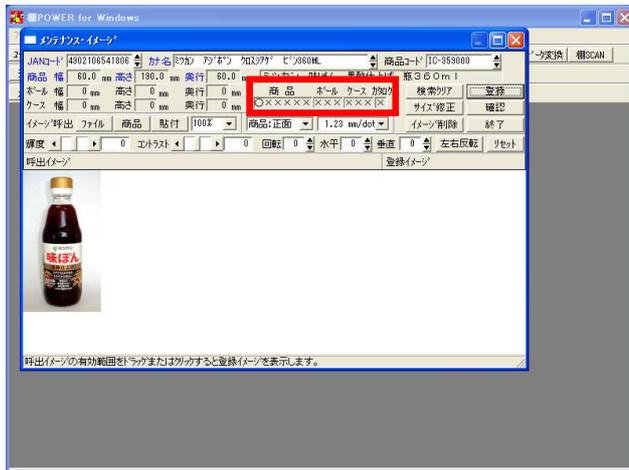
49. 登録する前に、呼び出した画像の微調整が可能です。輝度やコントラストの調整、回転や、水平、垂直方向の歪みの補正などです。



50. 画面左の商品を囲むようにマウスをドラッグします。これにより画像の切り抜きが行なえ、画面右の登録イメージ枠内に切り抜き後の商品が表示されます。画像は切り抜いた画像サイズに関係なく商品マスターに登録されたサイズで自動的に調整されます。

なお、あらかじめ切り抜かれた状態の画像ファイルなら画像の上でクリックするだけで登録する画像を取得できます。

右側に表示された状態でよければ 登録 をクリックします。

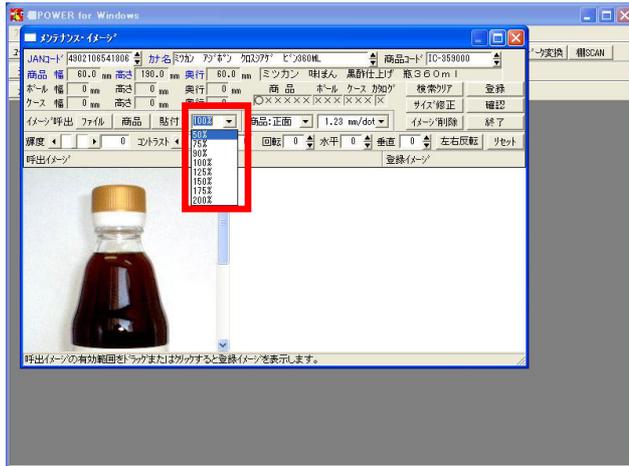


51. イメージの登録状況はここで確認ができます。

登録前は「×」表示ですが、画像が登録された面については「」が表示されます。

正面イメージの登録が完了したので、左端に「」が表示されました。

続けて上面や側面を登録する場合には、登録したい画面を選択し、「ファイル」をクリックして呼出イメージ枠内に画像を呼び出し、登録します。



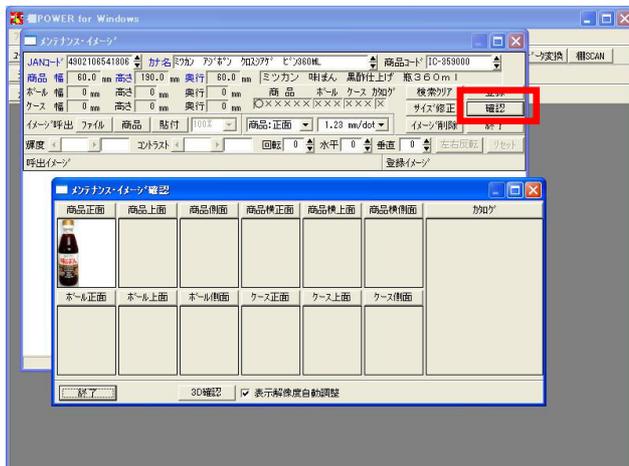
52. 補足として、呼び出したイメージサイズが大きい場合について、確認しておきます。

画面の左側に呼び出した画像が大きく表示され、画面を広げたりスクロールすれば確認はできますが、商品範囲をドラッグしづらい場合があります。

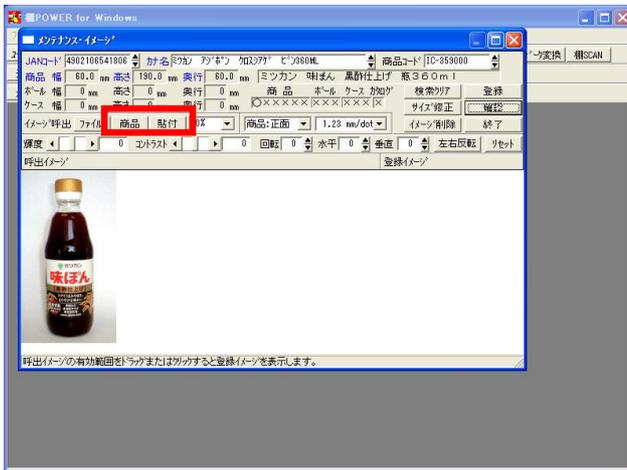
左側に呼び出す画像のサイズは、呼び出した時点で右側にこれから表示する画像サイズと比較して同等か、もしくは若干左側が大きいくらいが登録に最適な解像度となります。事前に基となる画像の解像度の調整が可能な場合には、調整したイメージを用意してください。デジタルカメラ等での撮影のし直しが難しい場合、見た目上画面に収まるよう倍率指定します。

「100%」横の をクリックし、パーセンテージを指定します。

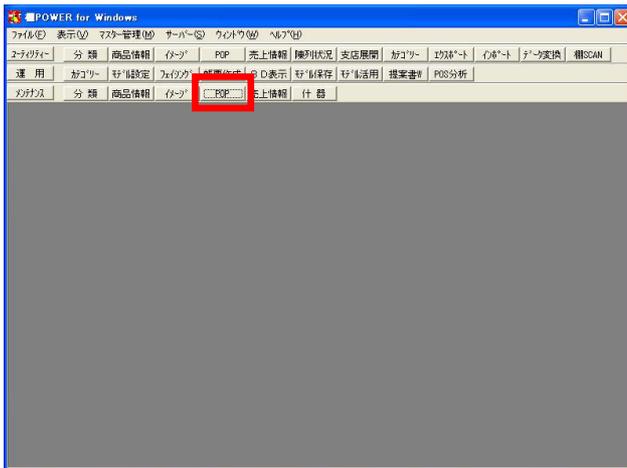
画像が画面に収まれば、ドラッグ操作で範囲指定します。



53. 確認 をクリックすると登録済イメージを確認できます。

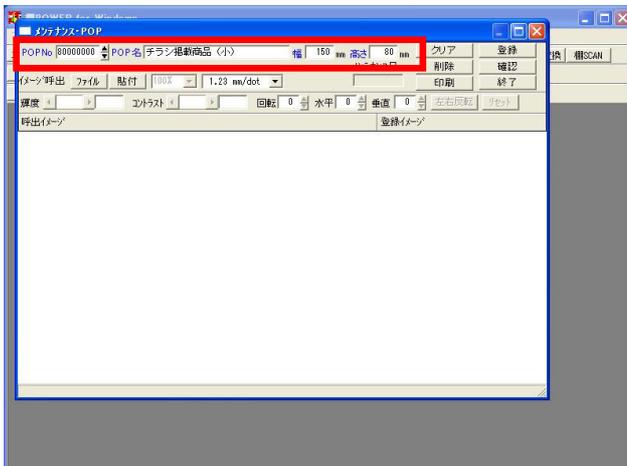


他のイメージ呼び出し方法として、すでに登録済みの商品イメージを呼び出し、流用して登録可能な商品や、画像編集ソフトやExcel上に貼り付けている画像をコピーした後利用できる貼付があります。



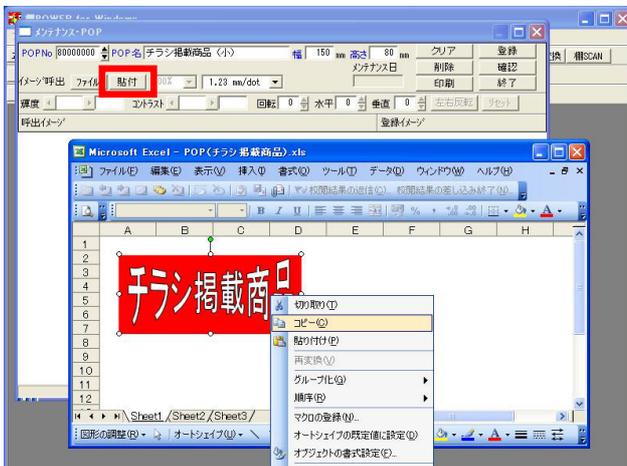
54. POPの登録方法は、イメージの登録とほぼ同じ手順ですので、ここで確認しておきます。

メンテナンス・POP をクリックします。



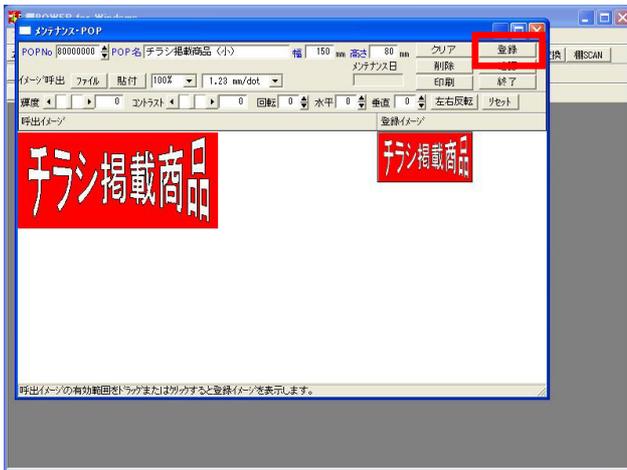
55. 新規POPを登録する場合は、「POPNo.、POP名、幅、高さ」が必須項目ですので必ず入力します。

この時、POPNo.が登録済みだと上書きになってしまうので注意してください。



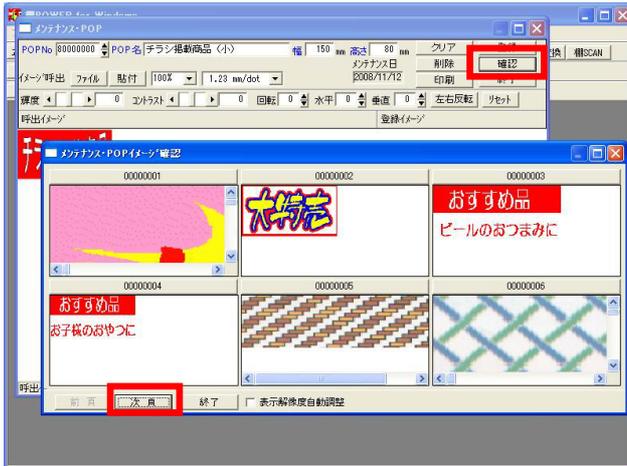
56. 今回は、Excelファイルに貼り付けてある画像をPOPとして登録します。

Excelファイルを開き、画像をコピーします。
メンテナンス・POP画面で 貼付 をクリックします。



57. 表示された画像をクリックします。

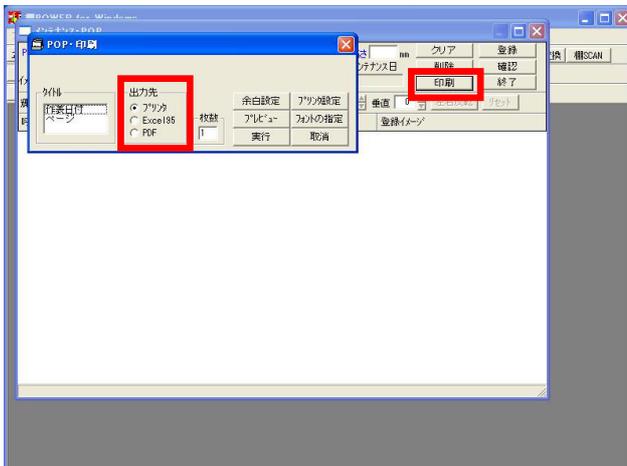
右側に表示された状態でよければ 登録 をクリックします。



58. 登録したPOPを確認します。

確認 をクリックします。

次項 をクリックするとPOPNo順にPOPを確認できます。登録したPOPを確認後、 終了 をクリックします。



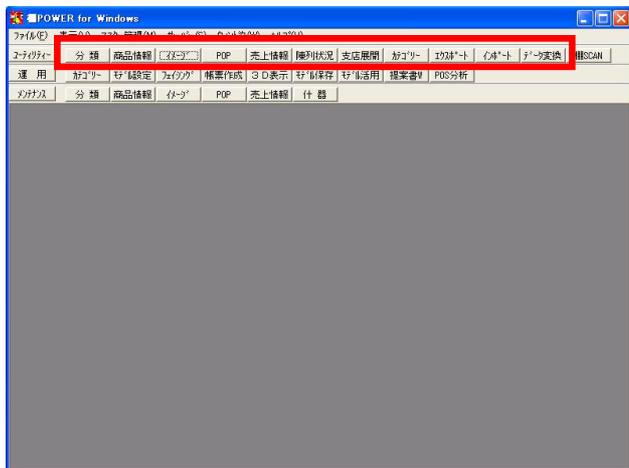
登録済みのPOPをExcel等へ出力して一覧で確認したい場合は、印刷 をクリックします。

プリンタ、Excel、PDF出力が可能です。事前に出力結果を確認するには プレビュー を使用します。

ここからは、ユーティリティ機能を利用して一括で複数の情報を登録する方法について学習します。ユーティリティは棚POWERに登録済みのデータを、棚POWER外部にExcelやCSVの形式で出力したり、外部のExcelデータなどを棚POWERに取込むための機能です。

出力のことを「エクスポート」と言い、取込み（入力）のことを「インポート」と言います。

分類情報マスターの登録（複数一括）



59. ユーティリティ機能について、詳しく説明します。

分類 以降 陳列状況 までは、それぞれ 分類 ならば、分類マスターのみ、商品情報 ならば、商品情報マスターのみを出入力するためのものです。

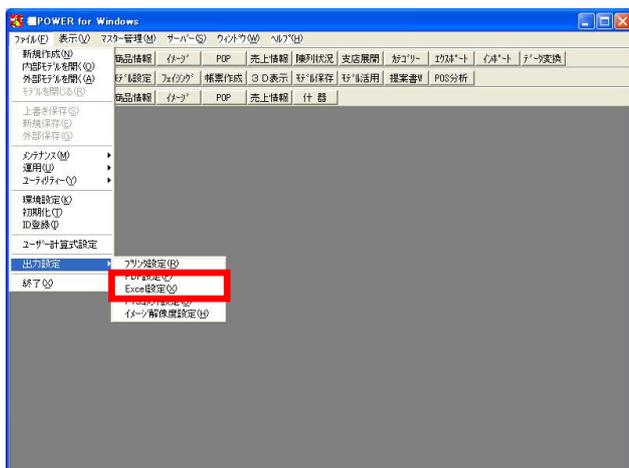
支店展開 は、棚POWER独自の形式で、分類・商品情報・イメージを一度に扱えます。

エクスポート は、分類・商品情報ほかモデル情報など複数データをまとめて出力可能な機能です。

インポート は、エクスポートの逆で、複数データをまとめて取込み可能です。

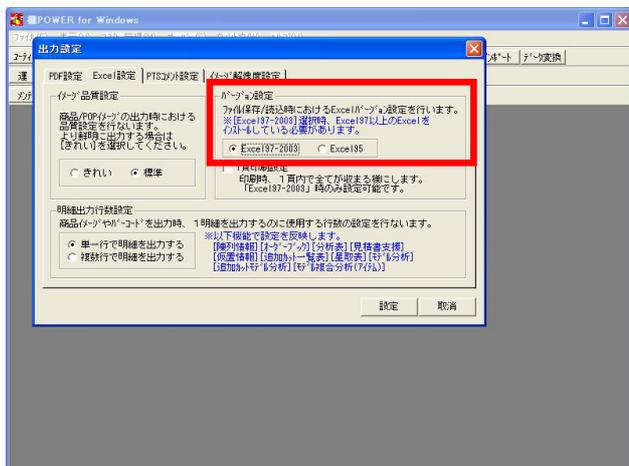
データ変換 では、業界データであるプラネット形式、SPスクエア形式のデータなどの入出力が可能です。

このユーティリティ機能を使用して、各マスターを一括で登録します。



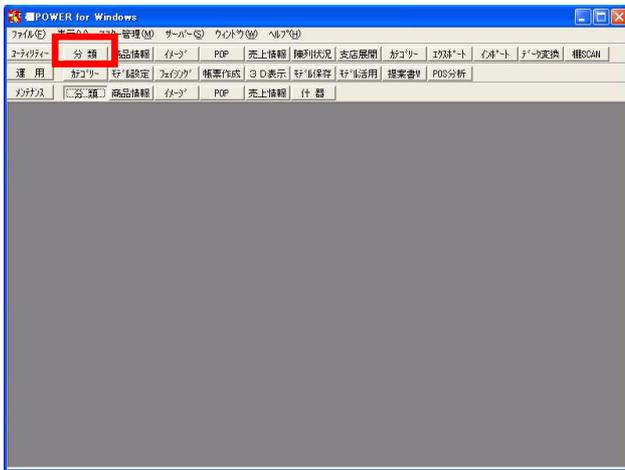
60. あらかじめコードと名称を入力したExcelファイルなどを準備するだけで、一括で分類マスターの新規登録が可能です。ここでは、まず一度分類マスターをエクスポートして、そのファイルを基にして編集をします。

61. 棚POWERから出力、入力するExcelの形式は、「Excel195」か「Excel197-2003」が選択できます。ファイル・出力設定・[Excel設定]を表示します。

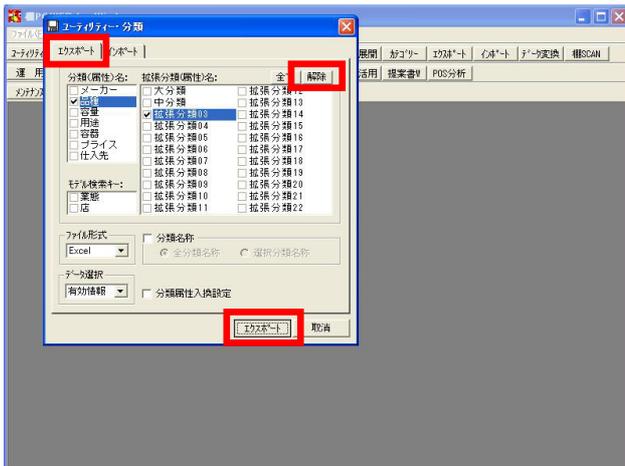


62. バージョン設定欄でExcelの形式を選択します。インストール初期値は「Excel195」となっているため、必要に応じて変更します。今回は「Excel197-2003」に変更して、これからの作業を行なうことにします。

PCにExcelがインストールされていない場合は、「Excel195」を選択してください。



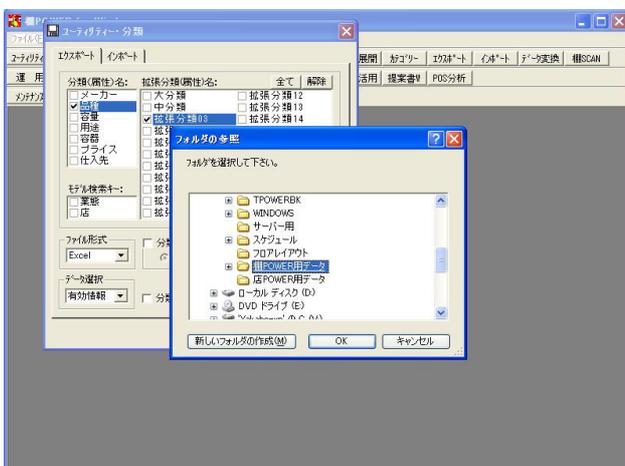
63. ユーティリティ・ 分類 をクリックします。



64. [エクスポート] を選択します。

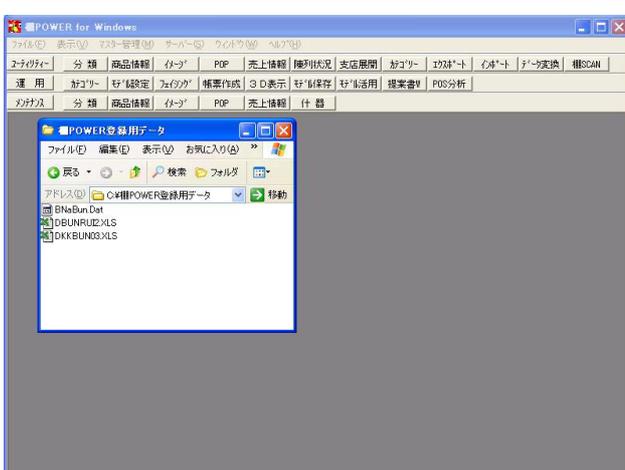
全ての分類にチェックマークが付いている場合、解除 で無効化する事ができます。
出力したい分類（ここでは、品種、拡張分類03）を有効化します。

ファイル形式はExcel形式を選択、データ選択は有効情報を選択します。
エクスポート をクリックします。



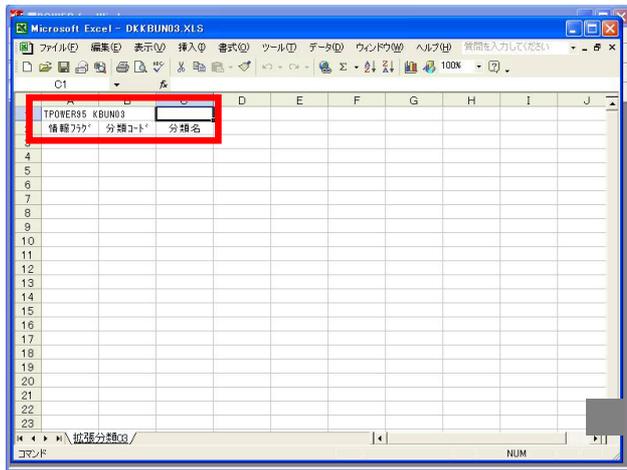
65. 出力先のフォルダを選択し、 OK をクリックします。

ユーティリティ・分類画面は 取消 もしくは、右上の「×」ボタンで終了します。
右上「×」で終了すると、設定内容を保持します。



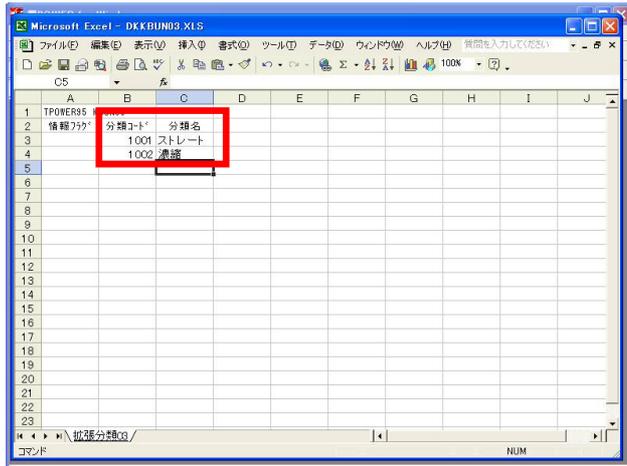
66. 分類属性は「DBUNRU12」「DKKBUN03」など自動的にファイル名が付いて保存されます。
今回出力したファイルは
「品種 = DBUNRU12」
「拡張分類03 = DKKBUN03」となります。

インポート（取込）時もファイル名で判断して該当の分類にインポートしますので、インポート用に修正するファイルは、ファイル名を変更しないようにしてください。



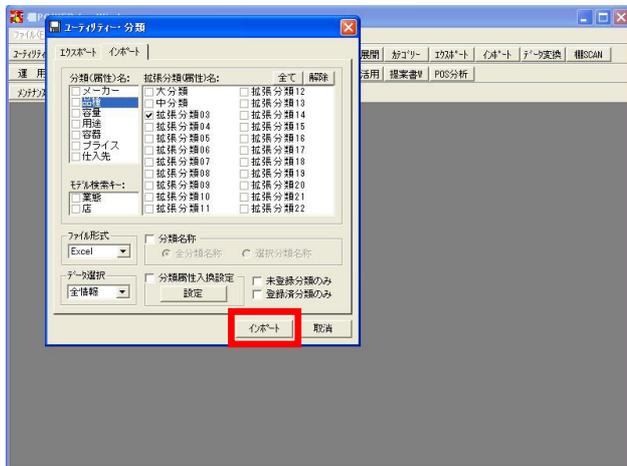
67. エクスポートしたファイルを開き、どのように登録すればよいか確認します。

1行目と2行目の項目は必須項目となり、入力間違いがあった場合には正常に取り込みができません。
3行目以降がデータの行になります。



68. 分類コードと分類名が入力できれば、上書き保存しファイルを閉じます。

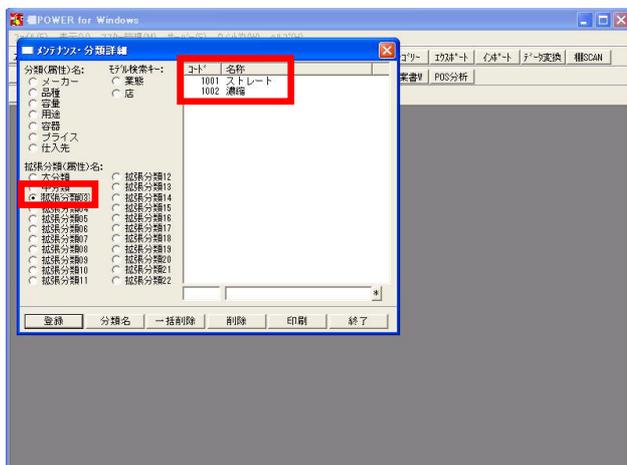
「Excel95」形式で使用する場合は、保存の際は、最新の形式に更新せずに、Excel95形式のまま保存してください。



69. 編集した分類情報をインポートします。

ユーティリティ・ 分類 をクリックします。
[インポート]をクリックします。

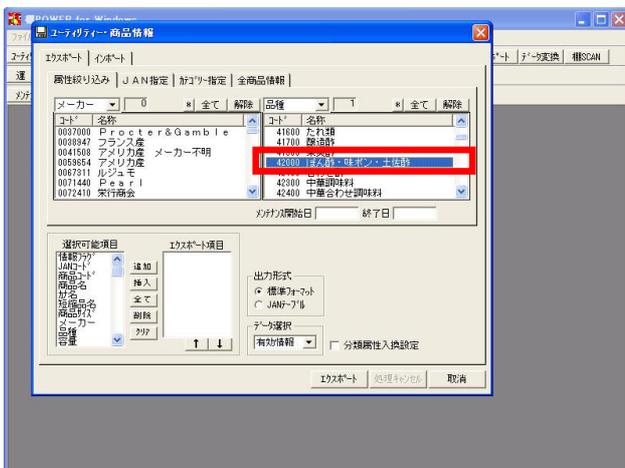
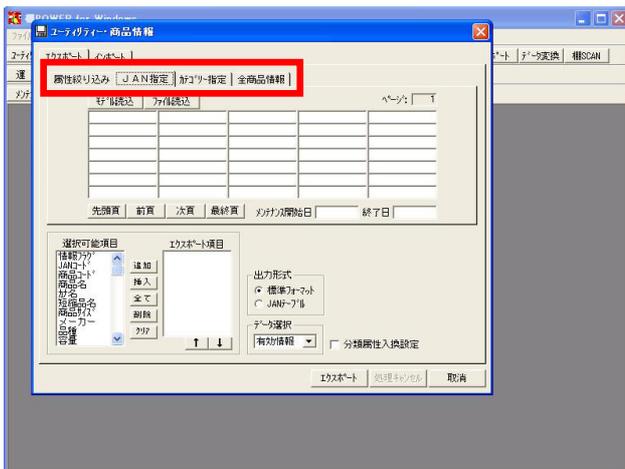
インポートする分類が選択されているか、ファイル形式は問題ないか等を確認後、 インポート をクリックし、ファイルが保存されているフォルダを選択します。



70. メンテナンス・ 分類 をクリックし、分類が正しく登録できているか確認します。

確認できたら 終了 をクリックし、メンテナンス・分類詳細画面を終了します。

商品情報マスターの登録（複数一括）



71. 商品マスターも分類マスター同様にExcelを利用した一括登録が可能ですが、商品情報マスターをエクスポートして、そのファイルを基に編集をします。

ユーティリティー・商品情報 をクリックし、[エクスポート]を選択します。

72. 出力する商品の範囲を絞り込む方法として、属性絞り込み，JAN指定，カテゴリ指定，全商品情報があります。

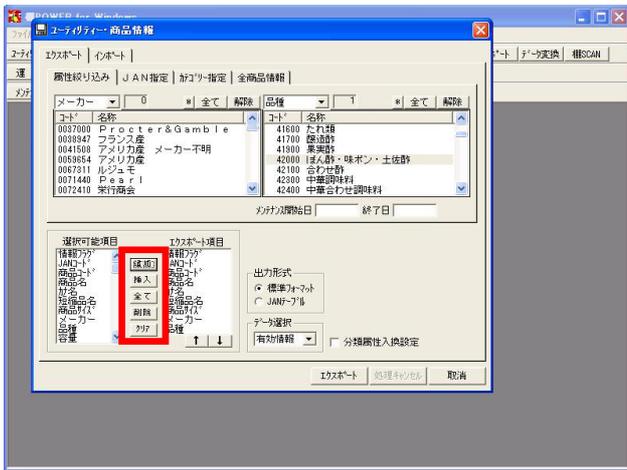
属性絞り込み：
属性絞り込みは、登録済みの分類に属する商品を指定する方法です。

JAN指定：
処理対象とするJANコードを入力またはファイルなどから読み込んで指定する方法です。
既存モデルを参照し、モデルに陳列している商品のJANコードを読み込むことも可能です。

カテゴリ指定：
「カテゴリグループ」を登録後、利用できる絞り込み方法です。（カテゴリグループの作成方法はオンライン研修会「棚割・帳票作成編」で紹介しています。）

全商品情報：
全商品情報は、全商品情報マスターを対象とします。

73. ここでは、仮に属性絞り込みで登録済商品の存在する品種「42000」を選択します。



74. エクスポート項目に一部項目のみ設定する場合は、選択項目から必要な項目をダブルクリックするか、追加 や 挿入 でエクスポート項目に設定します。

一旦全ての項目を消す場合は クリア をクリックしてエクスポート項目を空白にし、再度必要な項目を選択、設定します。今回は 全て を選択します。

複数項目をまとめて設定する場合は、キーボードのCtrlキーやShiftキーを使用して複数項目を選択した後、追加 等を行ないます。

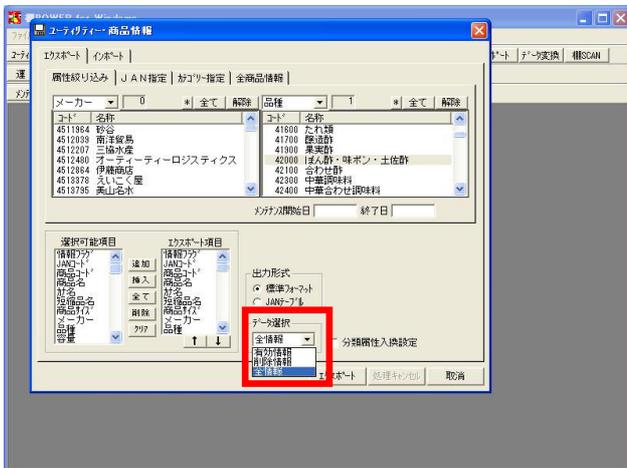


75. 出力形式は「標準フォーマット」と「JANテーブル」の2種類があります。

標準フォーマット：
エクスポート項目に指定された全ての項目を一覧表形式で出力します。標準フォーマット形式のデータは商品情報を取り込む際の雛形になります。

JANテーブル：
JANコードのみを縦1列に出力します。JANコードのリストのみ必要な場合に利用します。

今回は商品情報を新規登録、確認、修正するなどの目的で出力するので「標準フォーマット」を選択します。



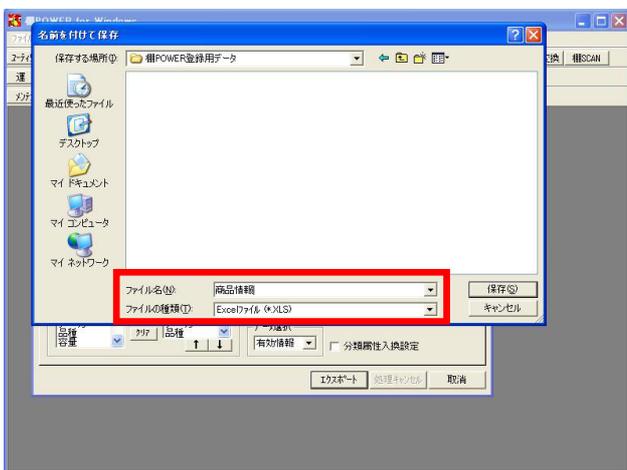
76. データ選択を確認します。データ選択は「有効情報」「無効情報」「全情報」の3種類があります。

有効情報：
棚POWER内で商品情報として有効（陳列に利用可能）な情報です。

削除情報：
商品情報を削除すると、物理的に削除せず削除情報として保持します。

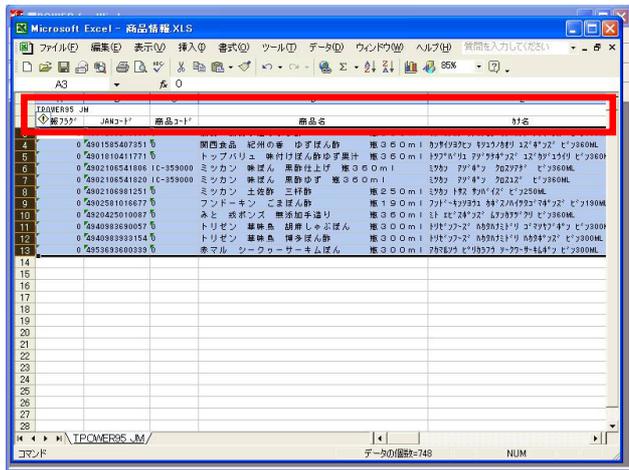
全情報：
有効情報と削除情報をあわせた全情報です。

全てのデータを出力して確認する場合は「全情報」を選択します。



77. エクスポート をクリックし、Excel形式でファイル名をつけて保存します。

商品情報は分類と違い、任意のファイル名を付け、保存をクリックします。



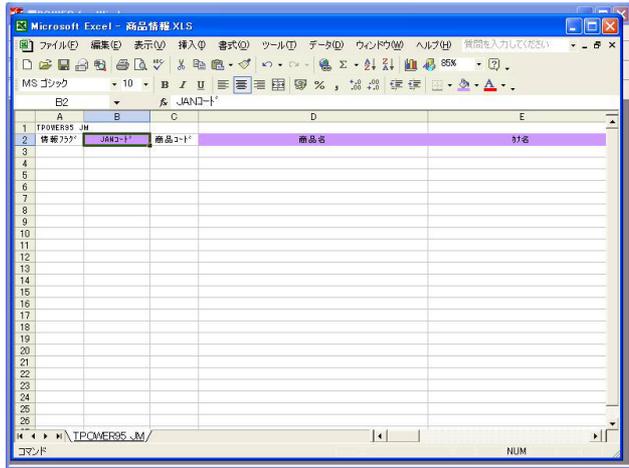
78. エクスポートしたファイルを開きます。

分類情報と同様に1行目と2行目は雛形として使用する項目です。3行目以降がデータの行です。

データ加工の際にDeleteキーで削除すると、空欄のデータが残るインポート時のエラー発生原因となります。

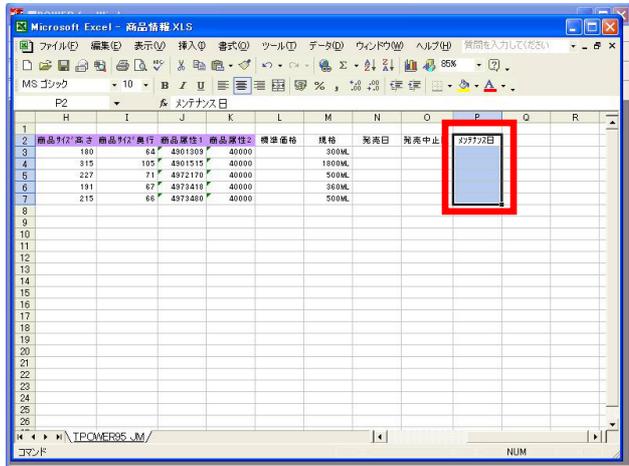
新たに商品情報を登録する場合は入力されている情報を行ごと削除します。

登録したい商品の情報を入力、または他のファイルからコピーして貼り付けるなどの加工を行ないます。



79. 棚POWERは2行目にある項目名でデータの有無を判断し、JANコードをキーに登録を行ないますので、項目名は変更しないでください。

全く入力しない項目は列ごと削除してしまうとよいでしょう。項目が減って編集もしやすくなります。

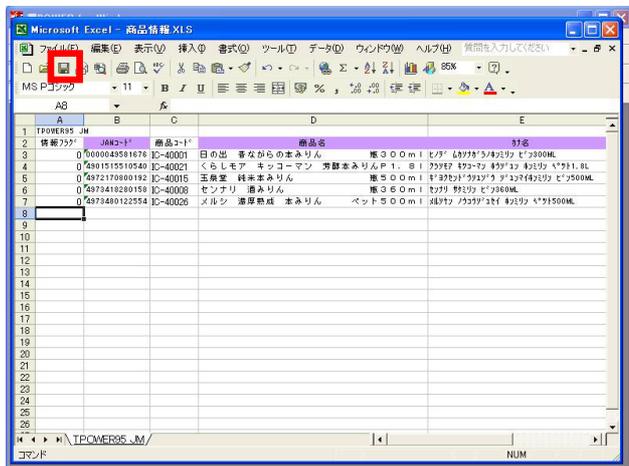


80. 商品情報インポート時のメンテナンス日の扱いは次のようになります。メンテナンス日が、

入力されている：
その内容が優先して登録されます。

入力されていない：
パソコンに設定されているシステム日付が自動的に登録されます。

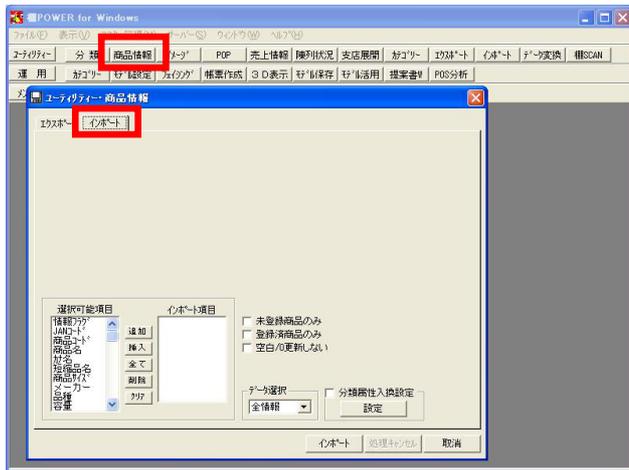
商品情報を後日更新した場合も同様で、日付が入力されていればその日付を、入力されていなければ更新日を登録します。



81. 加工後、上書き保存またはファイル名を付けて保存します。

「Excel95」形式を使用している場合は、分類の時と同じくように最新の形式に更新せず、Excel95形式のまま保存してください。

これで、一括登録用の商品情報ファイルが作成できました。後程、このファイルをインポートして新規登録を行ないます。



82. 修正したExcelファイルをインポートします。

ユーティリティ・商品情報・[インポート]を選択します。



83. インポート項目を設定する時も、ダブルクリックや 追加～クリアの各ボタンを利用してインポート項目を設定します。

情報フラグについて

Excelファイル修正時に情報フラグに「0」や「9」を入力する事で有効情報が削除情報かを決められますが、インポート項目に「情報フラグ」を選択しなかった場合は、すべて有効情報として取り込まれます。



84. インポート項目の横に、「未登録商品のみ」「登録済商品のみ」「空白/0更新しない」という項目があります。それぞれのチェックボックスを有効にすると次のようなインポートを行なう事ができます。

未登録商品のみ：

登録済商品は上書きせず、未登録商品のみ取り込み、新規登録します。

登録済商品のみ：

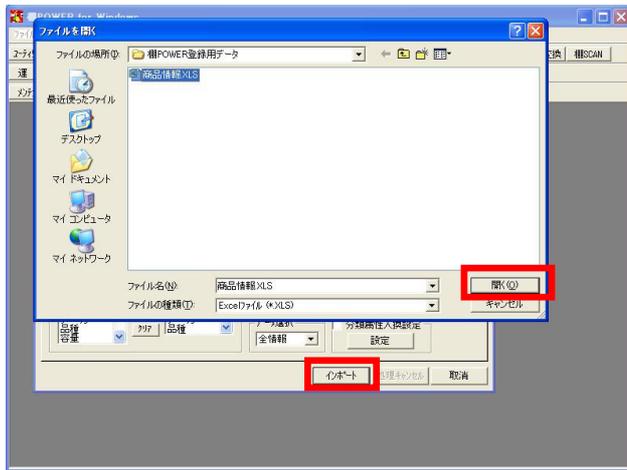
未登録商品は取り込まず、登録済商品のみ上書きします。

両方ともチェックボックスを無効化すると、登録済商品は上書き、未登録商品は新規登録となります。

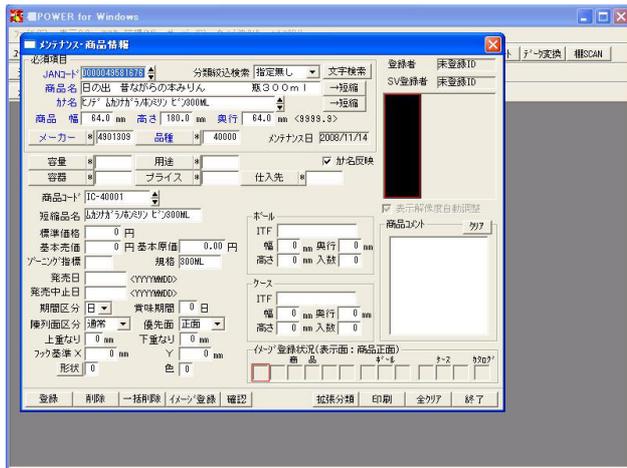
空白/0更新しない：

インポート項目に含まれる項目のデータが空白または0だった場合、空白/0を上書きしないようにします。

こちらのチェックボックスは有効化しておきます。



85. インポートをクリックして、編集済のExcelファイルを選択して「開く」をクリックします。



86. インポートが完了したら、メンテナンス・商品情報で、正しく登録できたか確認します。

ExcelファイルにあるJANコードをコピーし、メンテナンス・商品情報のJANコード欄に貼り付けてEnterキーを押下すると、商品情報が表示されます。

イメージマスターの登録（複数一括）

イメージを一括で登録する方法

<面番号>
優先面(番号なし)
正面 1(A)
上面 2(B)
側面 3(C)
横正面 4
横上面 5
横側面 6

例「4980673000247」の場合

優先面→4980673000247_BMP (JPG)	側面 →4980673000247_3_BMP (JPG)
正面 →4980673000247_1_BMP (JPG)	4980673000247C_BMP (JPG)
4980673000247A_BMP (JPG)	横正面→4980673000247_4_BMP (JPG)
上面 →4980673000247_2_BMP (JPG)	横上面→4980673000247_5_BMP (JPG)
4980673000247B_BMP (JPG)	横側面→4980673000247_6_BMP (JPG)

87. 次は、イメージの一括登録について確認します。

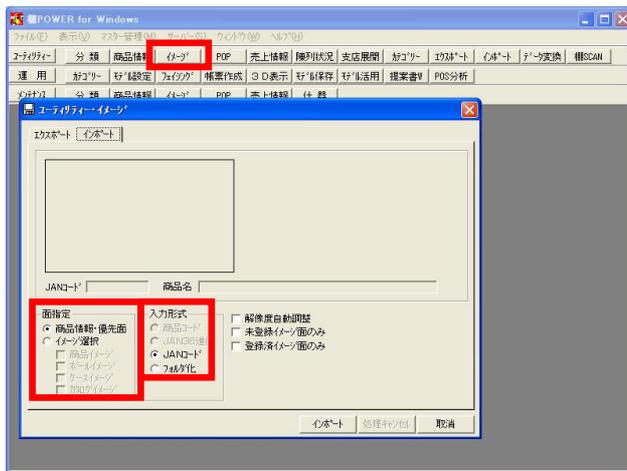
JANコードをベースにしたファイル名にすることで、画像ファイルを一括登録することができます。

このときの注意点は、あらかじめ背景画像を切り取り、商品だけの画像（トリミング済）にしておくという事と、画像ファイルのファイル名の付け方です。

一括登録時、どの商品にどの画像が割り当たるかをファイル名で判別するため、左図のようなルールでファイル名を付け、1つのフォルダにまとめておく必要があります。

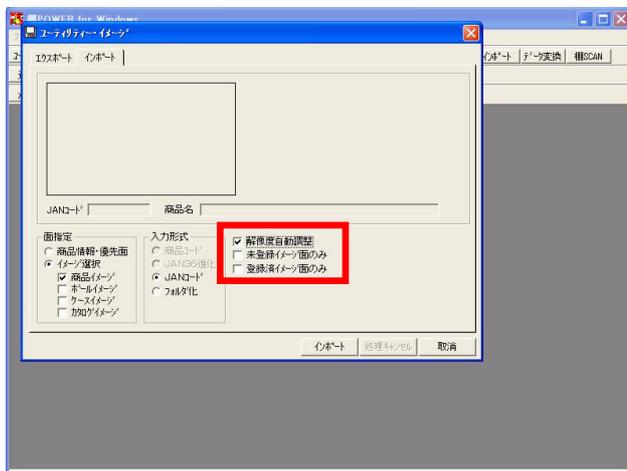
取り込み可能なファイル形式はBMP、またはJPEG形式です。

88. ユーティリティ・ イメージ をクリックし、[インポート]をクリックします。



面指定：
優先面に対して登録するか、イメージ選択で選択した項目に対して登録するかを選択します。
イメージファイルのファイル名編集時にどちらを選ぶか決めてファイルを作成するのでそれにしたがって選択します。

入力形式：
「JANコード」「フォルダ化」から選択します。これも、作成したイメージファイルの階層構造やファイル名によって決まりますので、作成したデータに合った方を選択します。



89. 「解像度自動調整」を有効化すると、インポート時に環境設定で設定済みの解像度でイメージを調整して取込みます。これにより棚POWERに不必要な高解像度イメージの取り込みを避けて、解像度の調整ができます。

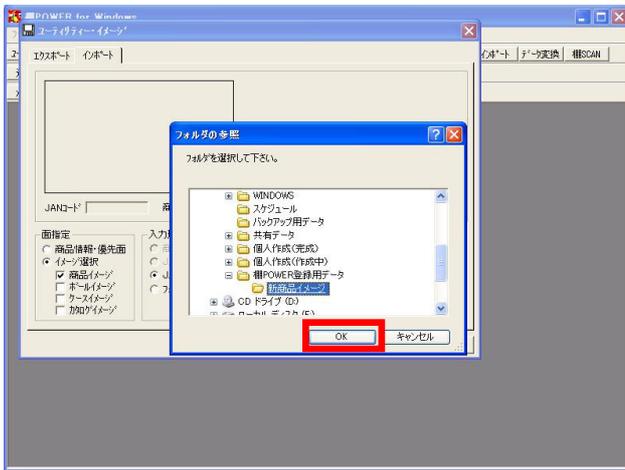
「解像度で自動調整」を無効化した場合、取り込む元イメージの解像度のまま登録するため、棚POWERとしては不必要に大きなイメージが取り込まれる場合や、商品によって解像度がまちまちとなり、帳票印刷時に全体のバランスが崩れる場合もあります。

「未登録イメージ面のみ」「登録済イメージ面のみ」項目は、基本的に商品情報と同じ考え方です。それぞれのチェックボックスを有効にすると次のようなインポートを行なう事ができます。

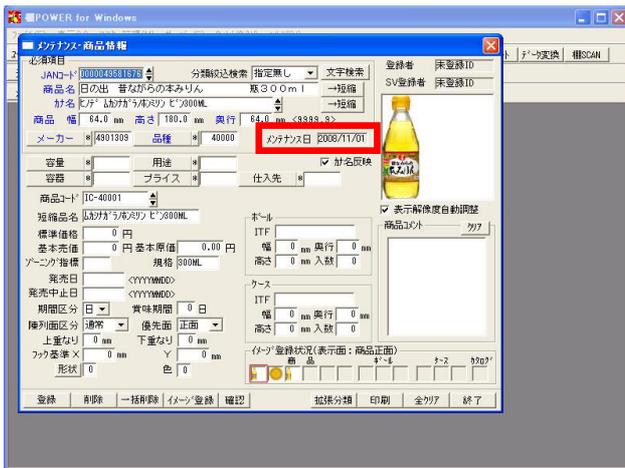
未登録イメージ面のみ：
登録済イメージ面は上書きせず、未登録イメージ面のみ取り込み、新規登録します。

登録済イメージ面のみ：
未登録イメージ面は取り込まず、登録済イメージ面のみ上書きします。

両方ともチェックボックスを無効化すると、登録済は上書き、未登録は新規登録となります。



90. インポート をクリックし、フォルダの参照でイメージを保管しているフォルダを選択し OK をクリックします。



91. インポートしたデータをメンテナンス・商品情報 で確認します。

メンテナンス日について
 メンテナンス日で商品情報を管理している場合、イメージインポート時には注意が必要です。

商品情報とイメージは共通でメンテナンス日を使用するため、イメージ登録更新時は必ず、パソコンに設定されているシステム日付が自動的に登録、更新されます。

メンテナンス日を任意の日付にしておきたい場合は、事前に該当商品情報をエクスポートして保存し、イメージインポート後に再度商品情報をインポートすることで元のメンテナンス日に戻す事ができます。実際に作業した日付でよい場合は、商品情報を再度インポートする必要はありません。

各マスターの削除方法

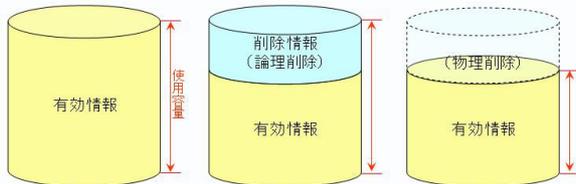
棚POWER導入当初は分類も商品情報も登録する事が中心ですが、いずれは商品が発売中止になったり分類が変更されて古いものが不要になったりと、データを修正する必要が生じてきます。

ここからは登録済マスターの削除、修正方法について説明します。

まずは各マスターの削除方法です。

削除の前に、棚POWERの「削除」の考え方について説明します。

論理削除と物理削除



92. 棚POWERには、「論理削除」と「物理削除」があります。

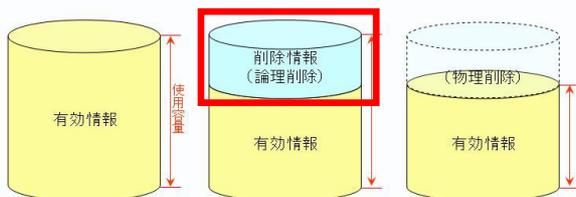
論理削除：

「棚POWER上では表示されないが、情報は残っており必要であれば復活できる状態」を指します。Windowsで言うとごみ箱にファイルを入れた状態と同じですので、論理削除しただけではハードディスクの空き容量は増えません。完全に削除してハードディスクの空き容量を増やすには物理削除という作業が必要です。

物理削除：

「完全に情報を削除してしまい情報が復活できない状態」です。Windowsで言うとごみ箱からファイルを削除した状態と同じですので、情報を復活させることはできません。情報が削除された分ハードディスクの空き容量は増えます。

論理削除と物理削除



93. 論理削除の方法をまとめました。

【単品ごと削除する場合】

分類マスター：メンテナンス・ 分類 より、削除したい分類を選択して、 削除 をクリックする。

商品情報マスター：メンテナンス・商品情報より該当商品を表示して 削除 をクリックする。

【複数まとめて削除する場合】

分類マスター：メンテナンス・分類・ 一括削除 から削除する分類を複数選択し、 削除 をクリックする。

商品情報マスター：

棚POWER上で一括削除する場合：

メンテナンス・商品情報・ 一括削除 から削除する商品を選択し、 一括削除 をクリックする。

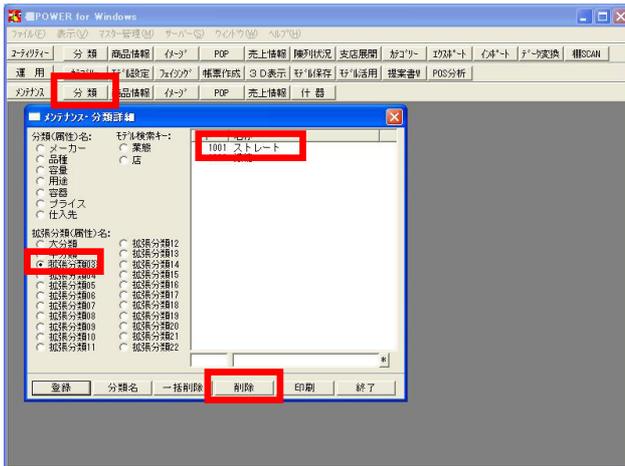
Excel等に出力し一括削除する場合：

ユーティリティ・商品情報にて該当商品をエクスポートし、情報フラグ欄を「0(有効フラグ)」から「9(削除フラグ)」に書き換えてインポートする。

イメージはすべて物理削除するため、論理削除の方法はありません。

ただし、商品情報を削除した場合、イメージは削除していても商品が存在しないことになり、表示なくなります。商品情報を再び登録すると、イメージも表示します。

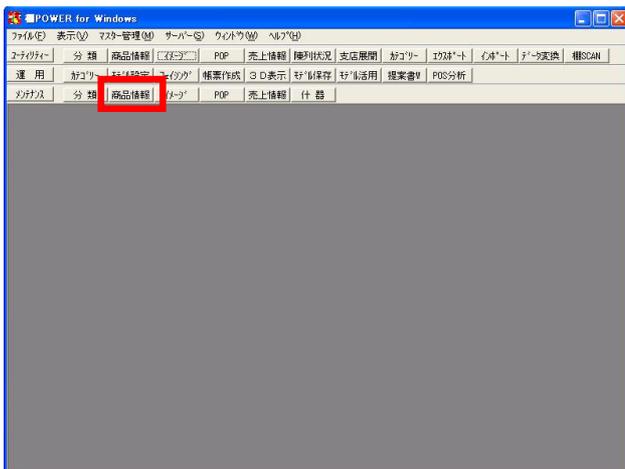
マスター削除方法（単一）



94. 分類マスターを単品ごと削除します。

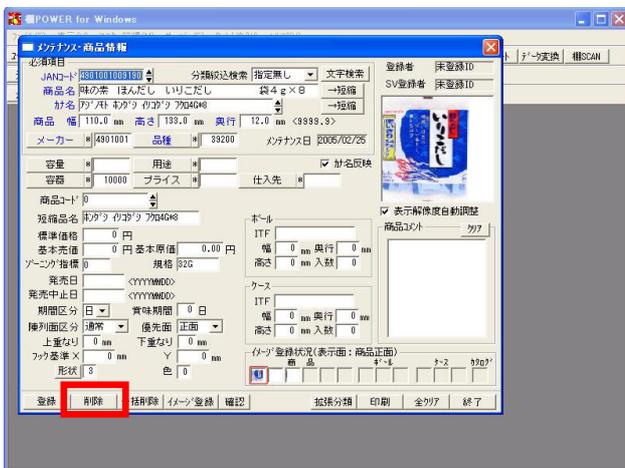
メンテナンス・ 分類 をクリックします。
削除したい分類（属性）名をクリックし、右側の一覧内の削除したい分類をクリックして選択後、削除 をクリックします。

これで該当の分類が論理削除されました。



95. 次に商品情報マスターを単品ごと削除します。

メンテナンス・ 商品情報 をクリックします。



96. 削除したい商品のJANコードを入力します。

商品情報が表示されたら内容を確認し、間違い無ければ削除 をクリックします。

これで該当JANコードの商品情報が論理削除されました。

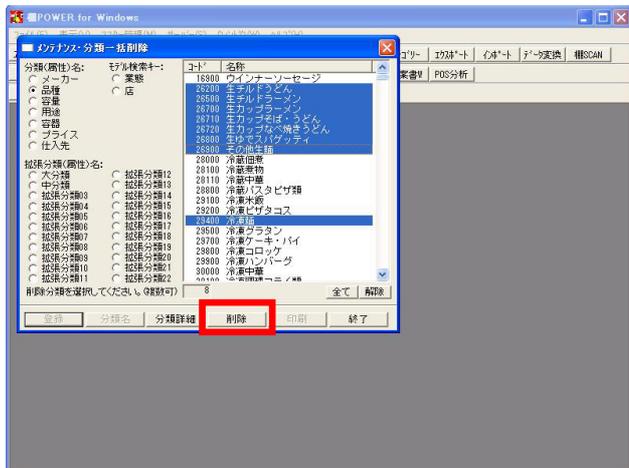
マスター削除方法（複数一括）

まとめて削除する方法は、「メンテナンス機能を使用する」方法と、「ユーティリティ機能を使用する」方法の二通りあります。



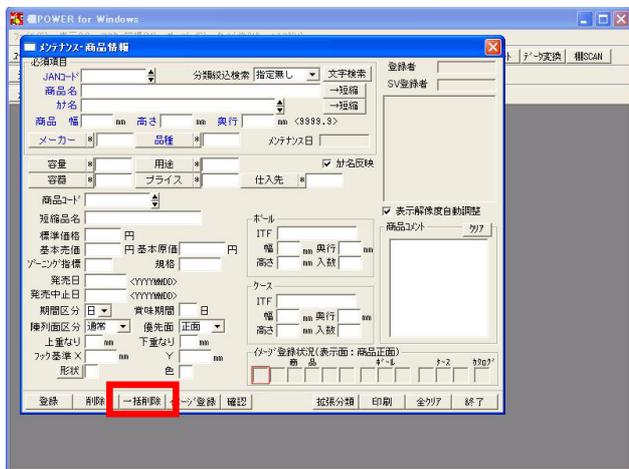
97. 分類マスターをメンテナンス機能を使用して、一括削除します。

メンテナンス・ 分類 をクリックし、続いて 一括削除 をクリックします。



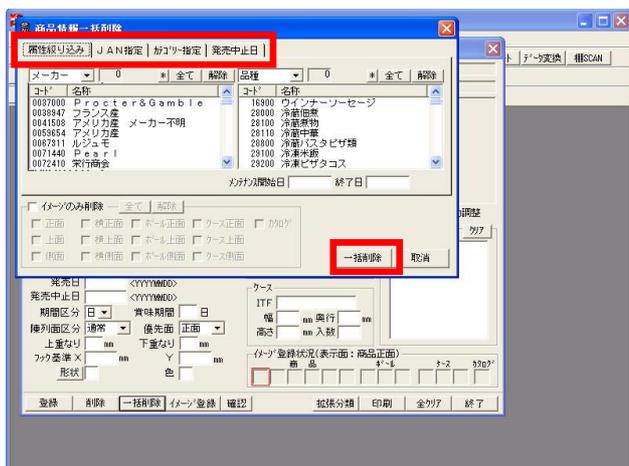
98. 削除したい分類（属性）名をクリックし、右側の一覧内の削除したい分類を、キーボードのCtrlキーやShiftキーを使用して、複数選択します。

選択後、 削除 をクリックします。



99. 引き続き、商品情報マスターを、メンテナンス機能を使用して一括削除します。

メンテナンス・ 商品情報 をクリックし、続いて 一括削除 をクリックします。

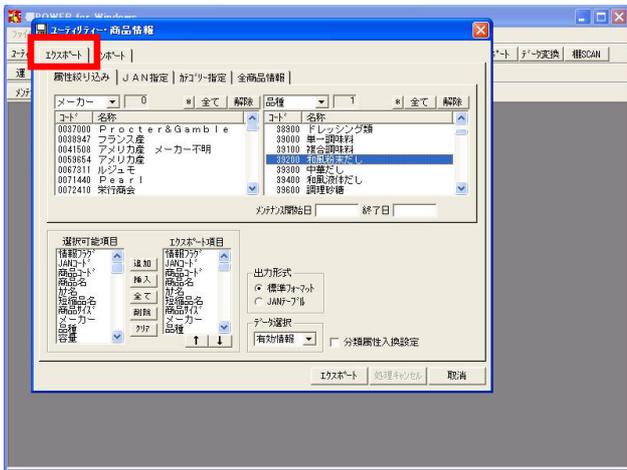


100. 一括削除では、商品情報とイメージの削除が可能です。

「属性絞り込み」「JAN指定」「カテゴリー指定」を使用して、商品の範囲を絞り込みます。「発売中止日」は、入力した日付より、商品情報マスターの「発売中止日」に登録している日付の古い商品を対象に削除します。

「イメージのみ削除」を有効にした場合は、商品情報は削除せず、イメージのみを削除します。この際、登録イメージ面の指定が可能です。

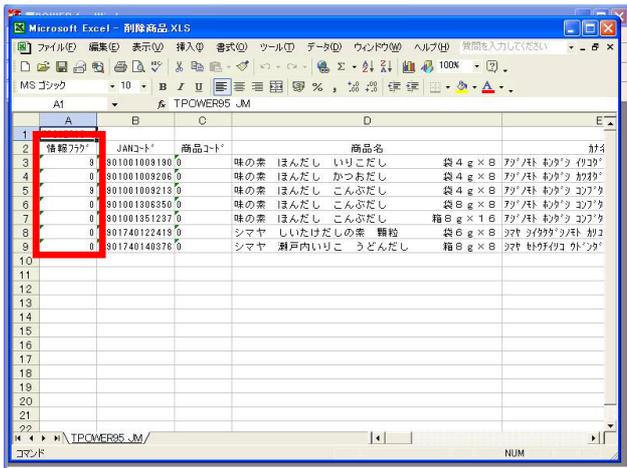
削除する商品を選択後、 一括削除 をクリックします。



101. 次に、Excel等へ出力し一括削除する「ユーティリティ機能」を使用して削除を行ないます。

手順は分類マスターも商品情報マスターもほぼ同じなため、商品情報マスターで説明します。

ユーティリティ・商品情報・[エクスポート]をクリックします



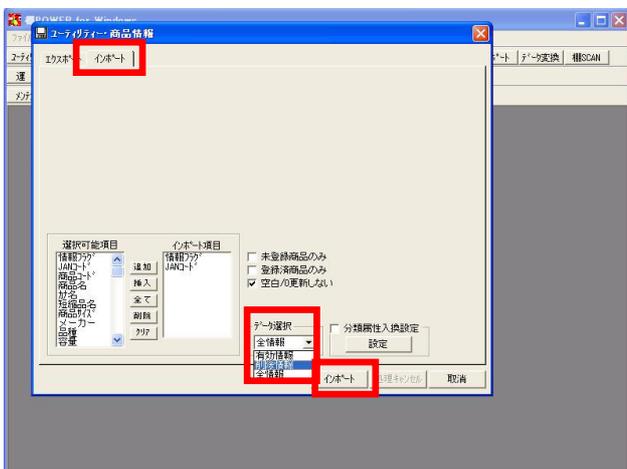
102. 保存したファイルを確認、編集します。

情報フラグについて説明します。

「0」は有効情報として取り込みたい情報に、「9」は削除情報として取り込みたい情報に付けます。先ほどメンテナンス・商品情報で削除した「4901001009213」は「9」フラグが付いた状態で出力されています。削除情報に変更したい商品に「9」フラグを付けます。

103. ファイル名を付けて保存します。

「Excel95」形式を使用している場合は、最新の形式に更新せずに、Excel95形式のまま保存してください。



104. 加工したExcelファイルをインポートします。

ユーティリティ・商品情報・[インポート]をクリックします。

今回は論理削除データを取込むため、インポート項目は「情報フラグ」と「JANコード」のみ選択します。(さらに他の項目を選択していた場合でも問題はありません。)

未登録商品のみ、登録済商品のみは無効にします。

データ選択は「削除情報」にします。

(有効情報と削除情報と一緒にインポートする場合は、「全情報」を選択します。)

105. インポート をクリックし、加工したExcelファイルを選択後、開く をクリックします。

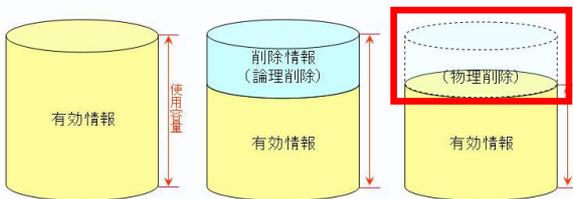
削除した商品を復活させる場合は、Excel上で情報フラグ「9」を「0」に戻してインポートします。

基本的に分類も同じ手順で削除を行ないますが、商品情報とは違い、この手順で作成されたファイルをインポートすると、インポートと同時に物理削除されるので注意が必要です。

物理削除方法

次に、棚POWERで商品情報を物理削除する手順をまとめました。
物理削除の場合は、単品で行なうことはほぼありません。複数まとめて削除を行いません。
また、商品情報マスターとイメージマスターは同時に扱います。

論理削除と物理削除



106. 物理削除の方法

分類マスター：
先ほどの商品情報の論理削除の際に説明した、「Excel等に入力し一括削除」する方法を行なうと、分類マスターの場合は物理削除されます。

商品情報・イメージマスター：
マスター整理を利用する場合
マスター管理メニュー・マスター整理を実行すると、論理削除状態の商品が物理削除されます。また、「指定JAN削除」を有効にしてJANコードを入力すると、有効情報であっても削除可能です。

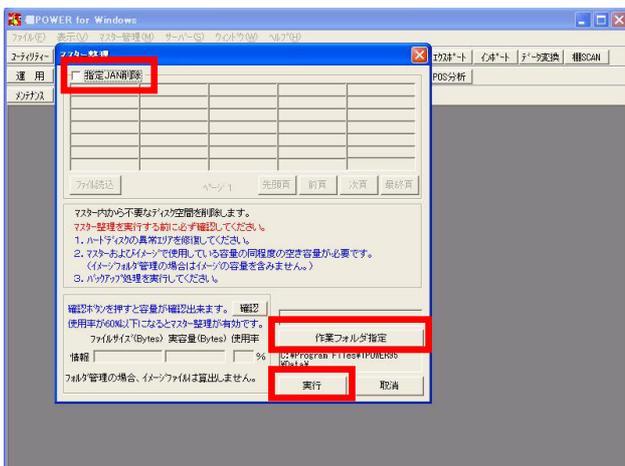
商品情報・イメージ削除を利用する場合
マスター管理メニュー・商品情報・イメージ削除では、指定した商品だけを物理削除したり、イメージだけを削除する事ができます。上記のマスター整理とは違い、論理削除状態の商品が自動的に物理削除されることはありません。

マスター整理を実行すると、異常データも同時に物理削除されます。実行前には棚POWERの「DBチェック」やOS付随機能のディスクのチェックを行ない、念のためバックアップを取る事を推奨します。詳しくは、基本マニュアルの「マスター整理」を参照してください。



107. 「マスター整理を利用する場合」

マスター管理・マスター整理をクリックします。



108. 「指定JAN削除」を有効にしてJANコードを入力すると、有効情報であっても物理削除が可能です。

確認 をクリックすると、マスターが使用している容量を確認できます。

作業フォルダ指定 について
マスター整理を実行するには、各マスターが使用しているディスク容量と同程度の空き容量が必要です。空き容量が極端に少ない場合は、十分空きのある別ドライブを指定すれば実行可能です。

実行 をクリックすると、マスター整理を行いません。
終了後は、マスター整理の結果を確認、出力できます。



109. 「商品情報・イメージ削除を利用する場合」

マスター管理・商品情報・イメージ削除をクリックします。
商品情報・イメージ削除では、JAN指定した商品だけを物理削除したり、イメージだけを削除する事ができます。

「商品情報」が無効の場合は、イメージのみを削除します。商品イメージと同時に商品情報を削除する場合は「商品情報」を有効にします。

実行 をクリックします。
実行後、削除した商品の一覧を確認、出力できます。

なお、マスター整理とは違い、論理削除状態の商品が自動的に物理削除されることはありません。

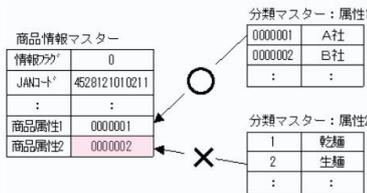
マスターの修正方法

分類、商品情報の修正方法について学習します。
分類名や商品名などの修正であれば、メンテナンス機能で呼び出して修正し、再登録する。ユーティリティー機能で修正する商品等をExcelに出力し、Excel上で修正し、インポートを行えば問題ありません。
ただし分類、商品情報の修正で分類コードを変更する場合は、商品情報も同時に変更する必要があります。

分類属性不一致とは

商品情報マスターの属性コードと分類マスターの属性コードが対応していない状態のことを言います。
下図では、商品属性1には分類マスター登録済みのコードを設定していますが、商品属性2では分類マスターに存在しないコードを設定しているため、属性不一致となります。

注意：「2」と「0000002」は別コードと判断します。



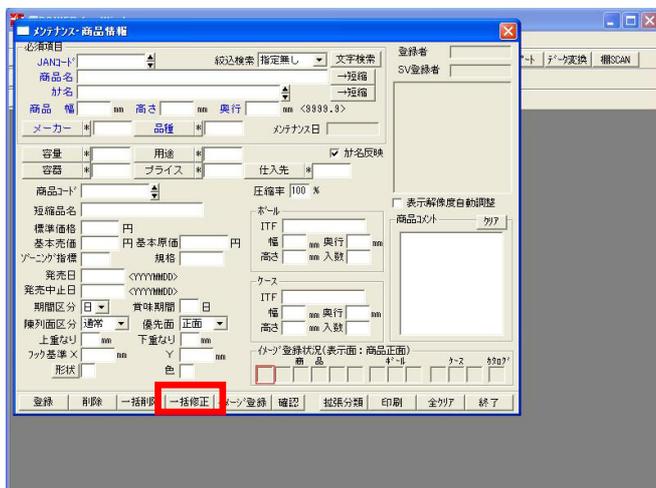
属性不一致が発生している場合、次のような様々な不都合が生じます。
1. カテゴリグループの登録時、抽出した件数が少ない。
2. 商品リストで指定した属性の商品が表示されない。
3. 帳票作成時に分類名称を出力できない。
4. 分析検証時に正しい結果を得られない。など

110. 例えば、今まで分類「品種：ボン酢」は「コード：100/名称：ボン酢」としていました。
しかし登録方法を変更することになり、「コード：1000/名称：ボン酢」とすることになりました。

この場合、分類マスターの変更はもちろんのこと、品種に「コード：100/名称：ボン酢」と登録している商品情報も修正しなければなりません。
修正しなかった場合、「ボン酢」は分類マスターではコードが「1000」で、商品情報ではコードが「100」と相違が発生します。

このように、登録済みの分類属性と、商品情報に登録された分類属性コードが合わなくなっている状態を、「属性不一致 (= 属性エラー)」と言います。

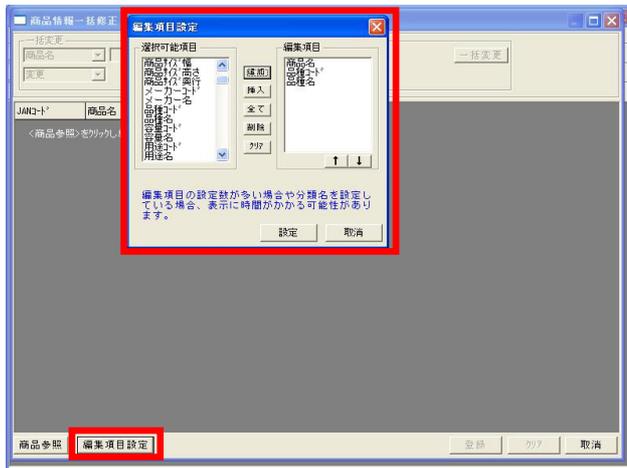
この状態になると、ある属性の商品を全て出力しようとしても一部は出力できなかったり、商品リストに表示されないなど、運用上問題が発生します。



111. 登録した商品情報を一括修正するには、登録時や削除時と同じように、メンテナンス機能がユーティリティー機能を使用します。

まずは棚POWER上で修正できるメンテナンス機能での修正方法です。

112. メンテナンス・商品情報・一括修正 をクリックします。



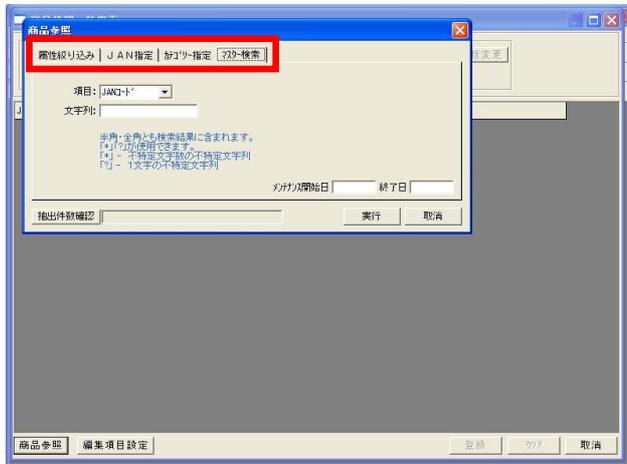
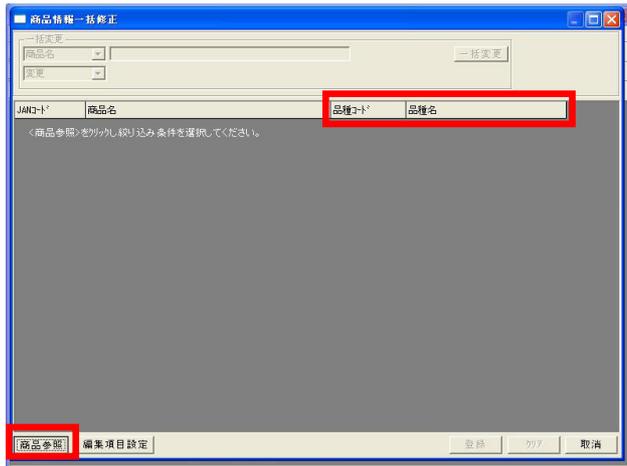
113. 商品情報一括修正画面に、任意の商品を呼出し、修正して登録することで、一括修正が可能です。
修正した項目を設定します。例えば、品種コードを「100」から「1000」にしたい場合は、品種コードを設定する必要があります。

編集項目設定 をクリックします。

114. 「選択可能項目」より、必要な項目をCtrlキー、Shiftキーを押しながら複数選択し、追加 をクリックして「編集項目」に含めます。
項目選択後、設定 をクリックします。

115. 編集項目に修正が必要な項目欄が追加されました。

116. 続いて修正対象の商品を呼出します。
商品参照 をクリックします。



117. 商品参照ウィンドウで、呼出す商品の絞り込みを行いません。

[属性絞り込み]からは、分類の指定が可能です。

[JAN指定]からは、JANコードの直接指定や、モデルを呼出して商品選択などが可能です。

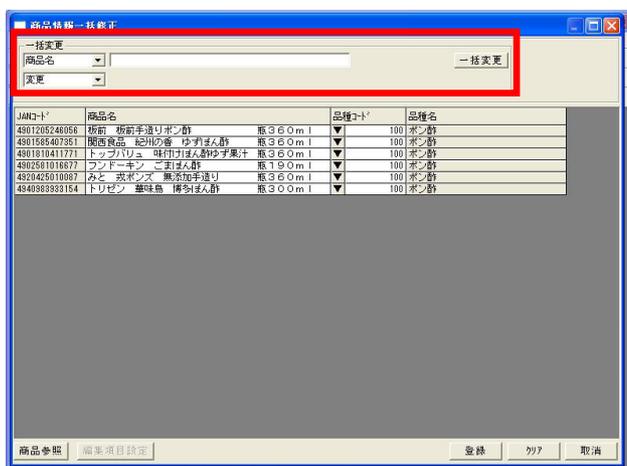
[カテゴリー指定]からは、カテゴリーグループの指定が可能です。

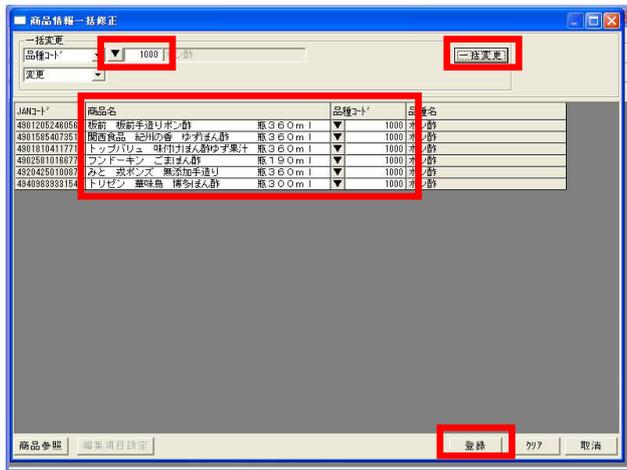
[マスター検索]からは、JANコード・カナ名・商品コードを対象に検索が可能です。

それぞれ、メンテナンス開始日・終了日の指定ができます。

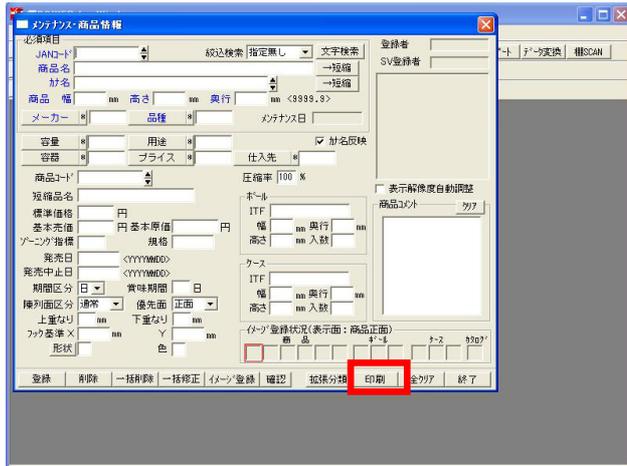
118. 修正する商品を出しました。
画面上で個別の項目の修正、または一括修正が可能です。

品種コードを一括修正します。
「一括変更」欄で「品種コード」を選択します。





119. から変更する品種コードを選択します。
120. 一括変更 をクリックします。
121. 個別に変更する場合は、表示している個々の商品上で行いません。からの選択、または直接入力が可能です。
122. 変更後、反映するためには必ず 登録 をクリックしてください。

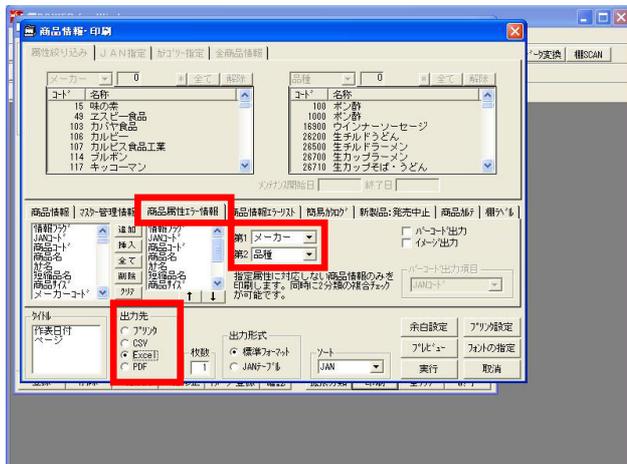


123. 修正対象の商品が分かれば、前述した 一括修正 ですぐに修正が可能です。どの商品を対象に修正すれば良いかわからない場合、メンテナンス・商品情報・印刷・[商品属性エラー情報]が便利です。

この機能は、指定した分類マスターに対応しない商品情報のみを出力することができます。

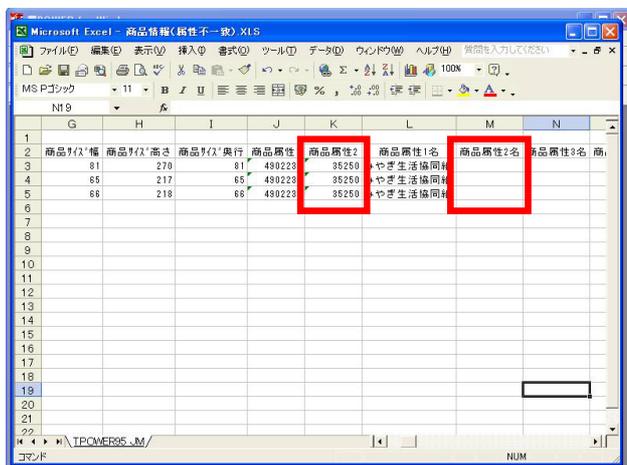
ユーティリティ機能の利用前後にチェックを行ない都度修正すれば、エラー情報の蓄積を防ぐことができます。

メンテナンス・商品情報の 印刷 をクリックします。



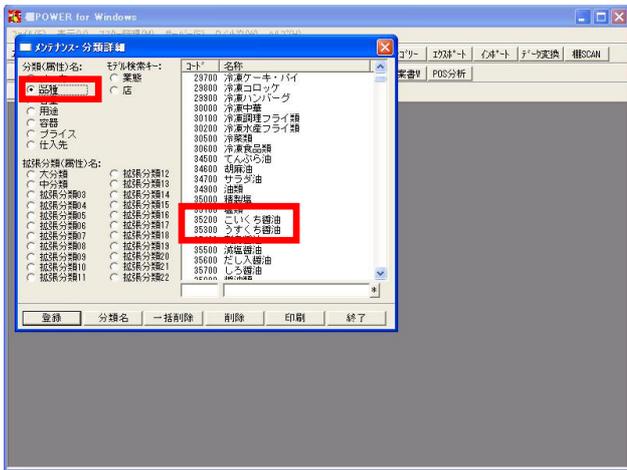
124. [商品属性エラー情報] をクリックします。
- 出力する項目を選択し、第1,第2分類属性を指定します。ここで指定した属性に登録されているコードと「一致しない商品情報のみ」を出力する事が可能です。

出力先をExcel形式に変更し 実行 します。



125. 出力したExcelファイルを開いて確認します。
- 出力された情報は、分類属性1または2が、登録済みの正しい分類属性と合致しない商品です。

正しい分類属性コードを入力しなおします。今回は、商品属性1については正しく登録されています。商品属性2には「35250」というコードが表示されていますが、名称が表示されていません。

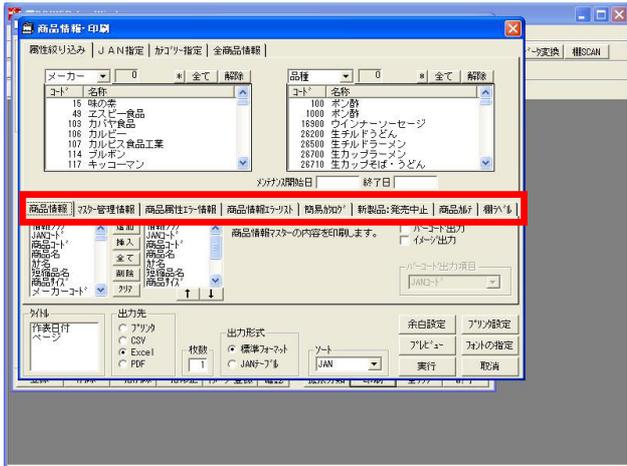


126. メンテナンス・分類から確認してみます。

商品属性2 (品種) としては「35250」は登録されていないことがわかります。

例えばここでは「35200 こいくち醤油」に修正するとして、Excelファイル上で「商品属性2」のコードを「35250」から「35200」に修正します。

修正後、名前をつけて保存し、インポートします。



127. その他、便利な機能を紹介します。

メンテナンス・商品情報の 印刷 をクリックします。

商品情報：

ユーティリティ・商品情報では出力できない「分類属性名」を出力できます。

マスター管理情報：

マスターの登録件数を、属性を指定して各項目別に何件登録されているか確認できます。

商品情報エラーリスト：

イメージや商品サイズが未登録のものだけを出力できます。

簡易カタログ：

指定した商品だけのカタログを作成できます。棚割せずに自社商品カタログを作成する場合などにご利用いただけます。

新製品・発売中止：

日付を指定して、新商品や廃盤商品を出力します。

商品カルテ：

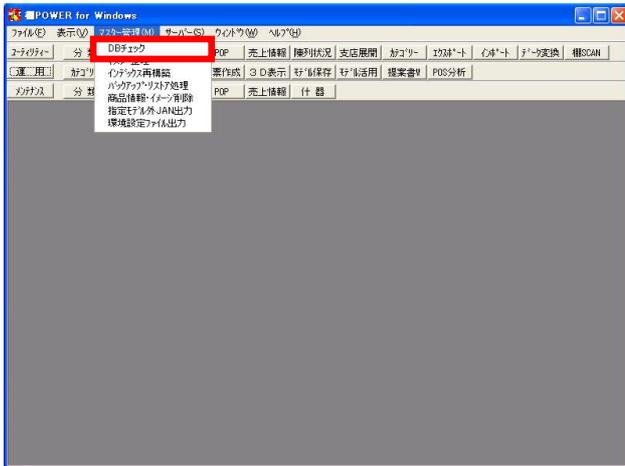
1アイテム毎の情報をより詳しく出力する事ができます。新商品会議などにご利用いただいています。

棚ラベル：

指定した商品だけの棚ラベルを作成可能です。一部商品の分だけ作成したい場合などにご利用いただけます。

棚POWERデータの移行・配信方法（全データ）

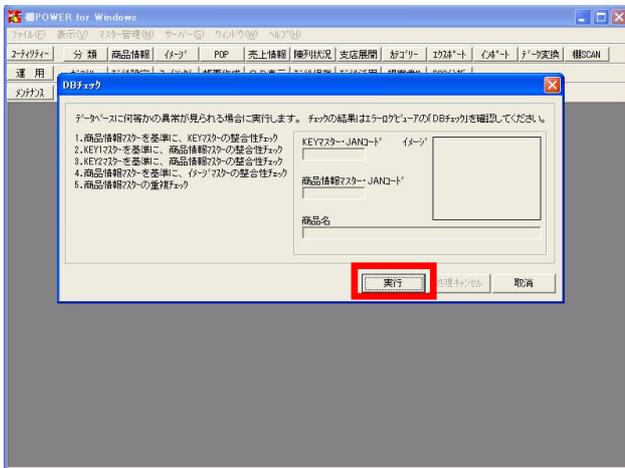
登録したマスターを、データが未登録の棚POWERに移行する方法は、大きく分けて二通りあります。一つがほぼ全てのマスターを移行する「バックアップ・リストア処理」。もう一つが、商品情報だけや一部のデータだけを移行する「ユーティリティー機能」です。



128. まずは全データを移行する「バックアップ・リストア処理」を行いません。

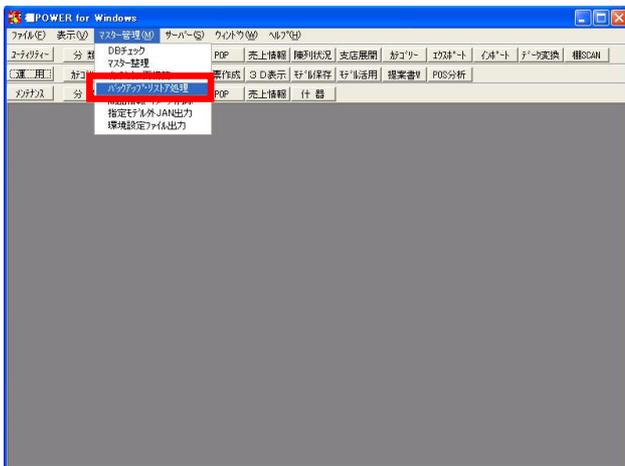
全てのデータを移行する前に、移行元となるデータベースに何等かの異常が無いかチェックするDBチェックを行いません。

マスター管理・「DBチェック」をクリックします。



129. 実行 をクリックするとマスターのチェックが始まります。終了時に「異常はありませんでした」とであれば問題ありません。

他のメッセージがでた場合は、メッセージをサポートセンターにご連絡ください。

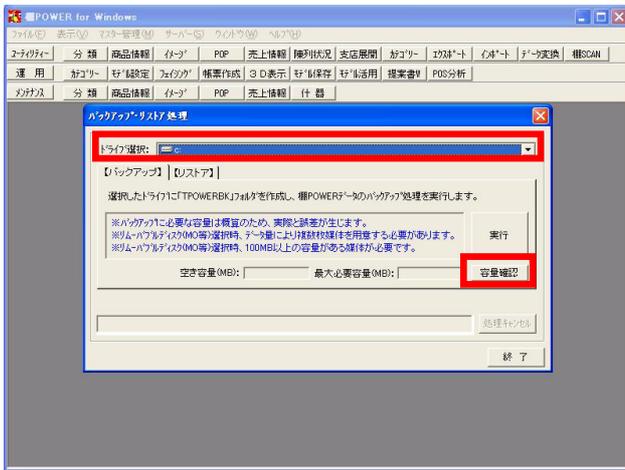


130. 次に、バックアップリストア処理を使ってバックアップデータを作成します。

通常のデータバックアップとしての利用はもちろん、環境設定の内容やID設定も含めてバックアップを行いませんので、複数台のPCに同時インストールする場合等、1台セットアップ後にバックアップを取ることで、残りのマシンはリストアのみでデータの移行ができます。

注意：
すでに登録済データがある稼働中の棚POWERに対して行なうと、既存データが全て削除されます。必要なデータが登録済みの棚POWERにはこの方法は利用できません。

バックアップを取る基PCで、マスター管理・「バックアップ・リストア処理」・[バックアップ]をクリックします。

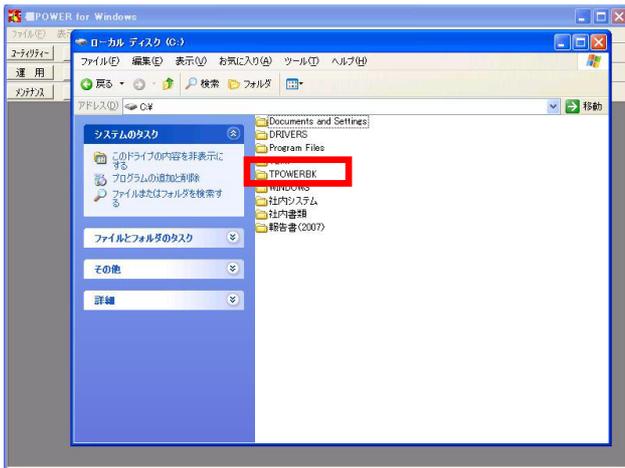


131. ドライブ選択ではバックアップデータを格納する場所を指定します。で参照できるドライブ直下の場所のみ選択可能です。ここではCドライブを選択します。

次に、容量確認でHDDの空き容量と最大必要容量を確認し、空き容量に余裕があればバックアップ可能です。

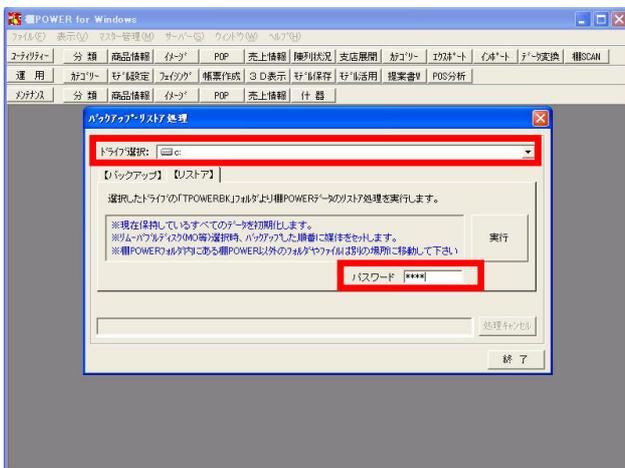
確認後、実行でバックアップを開始します。

バックアップには容量にもよりますが、一定の時間が掛かります。



132. ドライブ選択時に指定したドライブ直下に「TPOWERBK」フォルダが作成されます。

このフォルダ内には、商品情報・イメージ・モデル情報など、ほぼ全ての棚POWERデータが格納されますが、外部保存されているモデル (*.MDL) と帳票設定ファイルはバックアップされませんので、必要に応じて別途コピーが必要です。



133. 棚POWERを新規インストール、環境設定済のPCのCドライブ直下に、「TPOWERBK」フォルダをコピーします。

データ移行先PCで棚POWERを起動し、マスター管理・「バックアップ・リストア処理」・[リストア]を開きます。

ドライブ選択では「TPOWERBK」フォルダをコピーしたCドライブを選択、パスワードを入力して実行をクリックします。

なお、パスワードについては、基本マニュアル・マスター管理・バックアップ・リストア処理のリストアの欄に掲載しています。

実行をクリックし、リストア処理を行いません。これでデータの移行が完了しました。

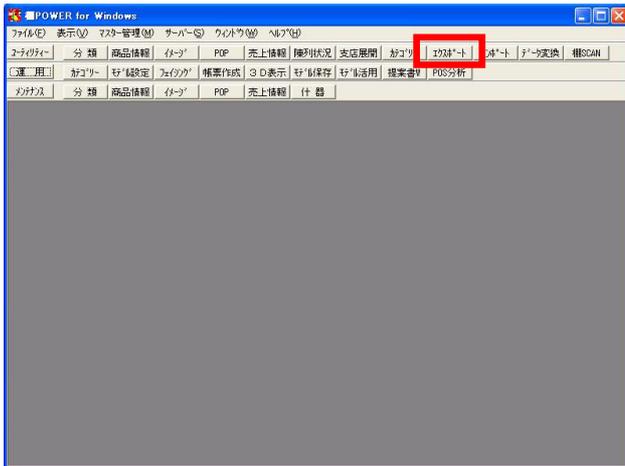
注意：

このバックアップ・リストア処理を使用する際は、バックアップをとったPCの棚POWERに対し、リストアを行なう棚POWERのバージョンは同等もしくは上位のバージョンである必要があります。

例えば、Ver16.00を使用してバックアップをとったデータは、Ver16.00もしくはVer17.00でリストアが可能です。Ver15.00以下ではリストアできません。

その他注意事項に関しては、基本マニュアルを確認してください。

棚POWERデータの移行・配信方法（一部データ）

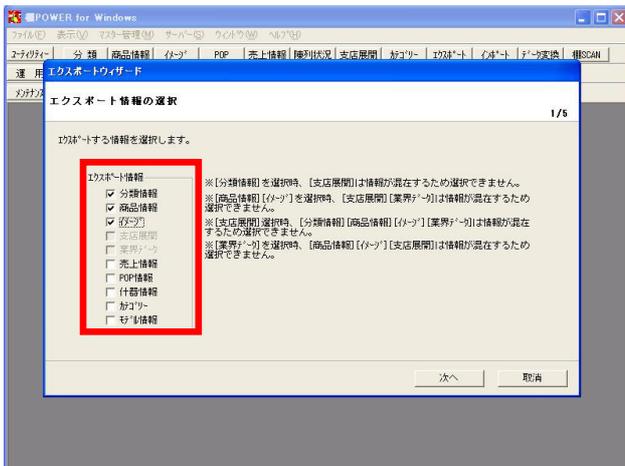


134. ここからは、ユーティリティーのエクスポート/インポートウィザード機能を利用して、棚POWERデータを支店間や棚POWER利用の取引先とやりとりする方法を説明します。

2台以上の棚POWER PC間で常にデータの同期を取るために必要となる手順です。

バックアップ・リストア機能とは違い、PC (A) が最新データを保持しているとして、PC (B) の既存データとの差分だけを渡したいという場合に利用できます。PC (B) に独自で登録したデータを残しつつ最新データも取り込むということが可能です。

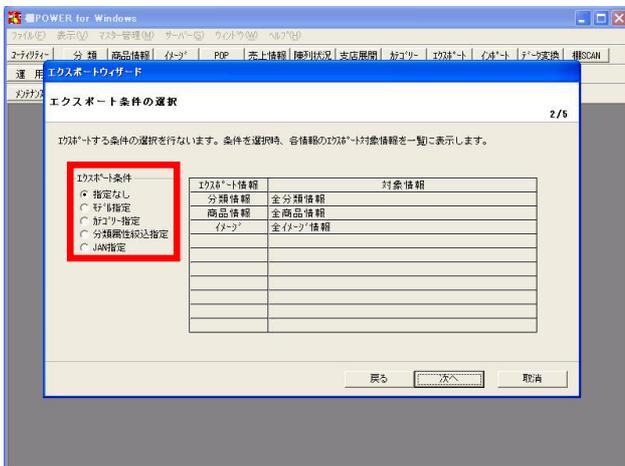
ユーティリティー・ エクスポート をクリックします。



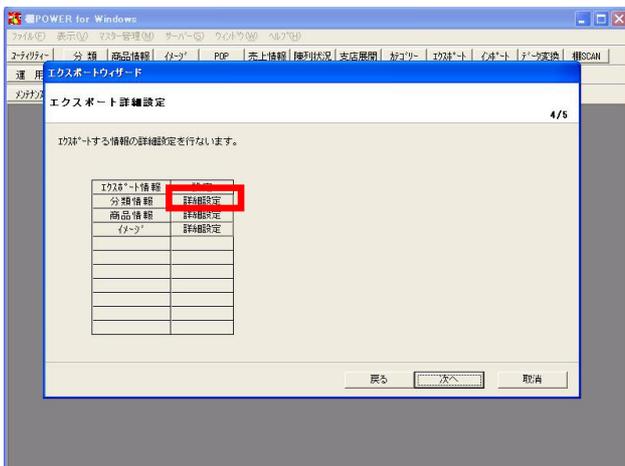
135. エクスポートウィザードとは、商品情報などの各マスター、モデル情報などを画面の案内に沿ってウィザード形式で操作を進めると、容易に情報の出力が可能な機能です。

分類だけ、商品情報だけ、と言う場合にはユーティリティーの各機能を使うと良いのですが、複数のマスターをまとめて出力するには大変便利です。

今からエクスポートする、「分類」「商品情報」「イメージ」のチェックボックスを有効化し、次へ をクリックします。



136. エクスポート条件ではモデルや属性による絞込み、JANコードを指定するなどの設定が可能ですが、ここでは全マスターを移行する目的で「指定なし」を選択し 次へ をクリックします。



137. エクスポート詳細設定では、エクスポート条件で指定した情報に対して 詳細設定 をクリックし設定を行ないます。

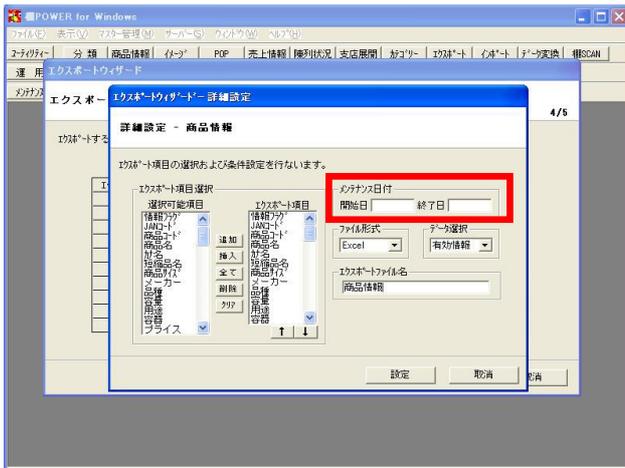
設定方法は、ユーティリティー・分類や商品情報を指定した時と基本的に同じです。

まず分類情報横の 詳細設定 をクリックします。



138. 分類の詳細設定を確認、設定します。

全ての項目の確認、設定後、 **設定** をクリックします。

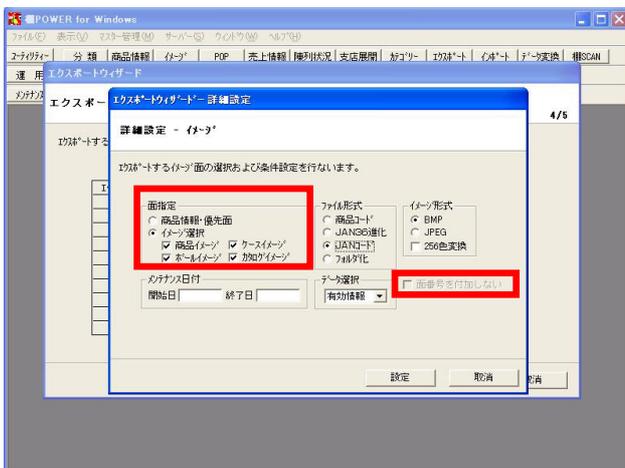


139. 次に商品情報の設定です。

エクスポートする項目や、ファイル形式、ファイル名などを設定します。

この時、必要に応じて「月 日以降にメンテナンスした商品のみ」などメンテナンス日で出力範囲を決める事もできます。

設定完了後、 **設定** をクリックします。



140. イメージのエクスポートについては、ここまでの説明に登場していないため詳細を確認しておきます。

イメージ横の **詳細設定** をクリックします。

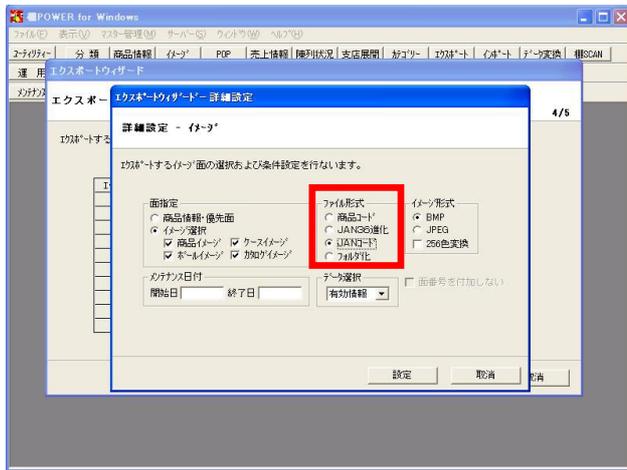
面指定は、「商品情報・優先面」と「イメージ選択」から選択します。

商品情報・優先面：
商品マスターの「優先面」項目で「正面」と登録されていれば、正面のイメージが出力されます。

面番号を付加しない：
正面なら1、上面なら2という面番号を付加せずに出力できます。なお、出力できるのは優先面に登録されている面のイメージのみです。

イメージ選択：
必要なイメージ面にチェックを付けると、チェックを付けた画像が全て出力されます。

今回は「イメージ選択」で全てのイメージにチェックを付けます。



141. ファイル形式は4種類から形式を選びます。必要に応じて選択してください。

ただし、棚POWERにインポート可能な形式は「JANコード」か「フォルダ化」なので、データ移行時は、このどちらかを選択してください。

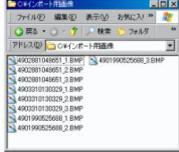
ここでは、「JANコード」を選択します。

「JANコード」と「フォルダ化」形式の違いについて

(例) JANコード=「4528121010211」の場合

【JANコード形式】

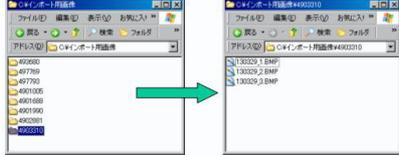
「4528121010211+(アンダーバー)+面番号.BMP(またはJPG)」



【フォルダ形式】

「4528121」

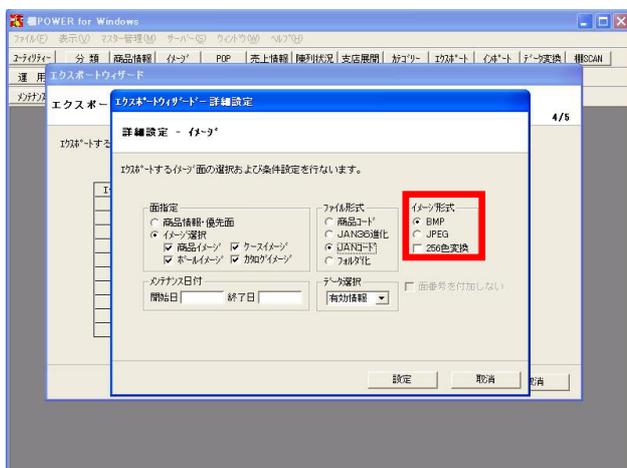
「010211+(アンダーバー)+面番号.BMP(またはJPG)」



142. 「JANコード」形式は、ファイルの名称にJANコード13桁をつけて出力します。

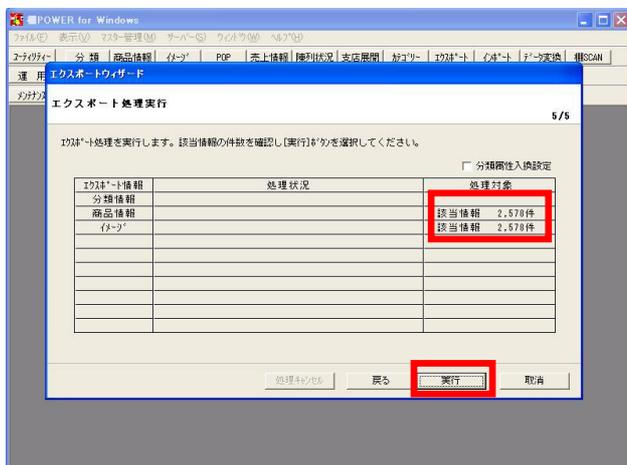
「フォルダ化」形式は、JANコード上7桁のフォルダ内に、JANコード下6桁の名称をつけたファイルを出力します。

なお、JANコードが8桁の短縮JANの場合は、JANコード上6桁のフォルダ内に、JANコード下2桁の名称をつけたファイルを出力します。



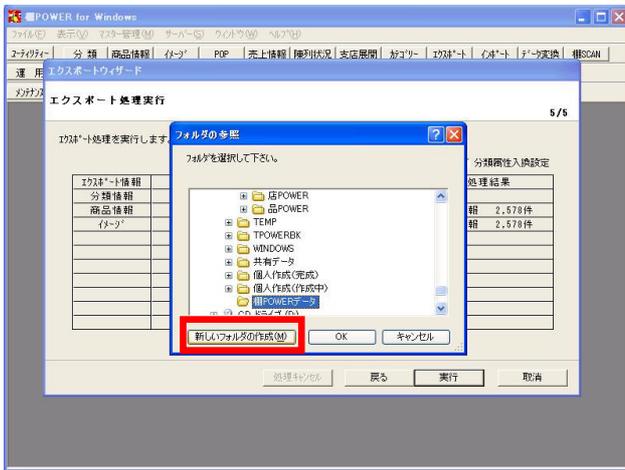
143. イメージ形式は、「BMP」「JPEG」から選択します。ここでは「BMP」形式を選択しておきます。

設定 をクリックし、元の画面に戻り、次へ をクリックします。



144. エクスポート処理実行画面では、今から処理する該当情報の件数を確認できます。

確認後 実行 をクリックします。

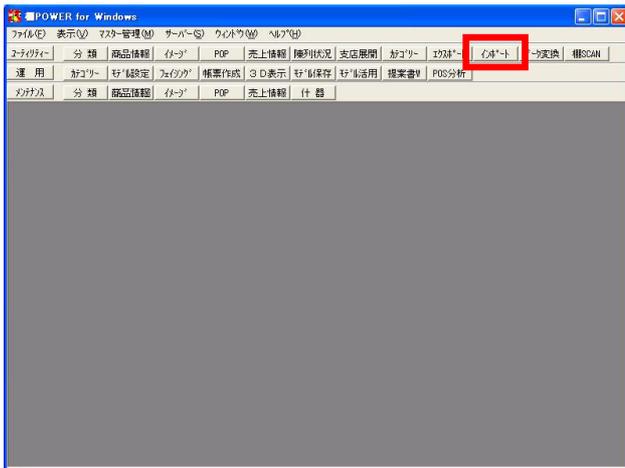


145. フォルダの参照画面で、新しいフォルダの作成機能を使用し、出力するファイルを保存するフォルダを、判りやすい場所に作成します。

フォルダを作成する場所を選び、新しいフォルダの作成をクリックし、名称を付けます。フォルダの作成が完了したら、続いて OK をクリックします。

エクスポートしたデータは、フォルダ毎取引先に渡すと先方でもインポートしやすくなります。

メールに添付する場合は、先方で1つのフォルダにまとめて保存してからインポートを行なわれるよう作業を依頼しておいて下さい。

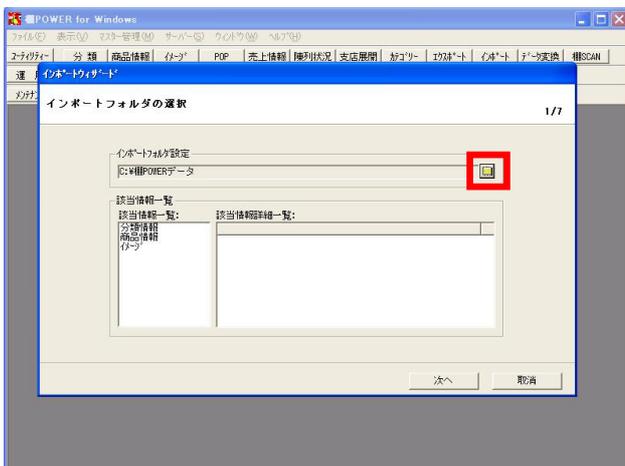


146. 次に、情報を取り込む側の操作についてです。

エクスポートと同様ウィザード形式で操作を進めます。

さらにインポート時には、棚POWERがマスターの種類や形式を判別して表示しますので、その中から必要な情報を選択して一度に取り込むことができます。

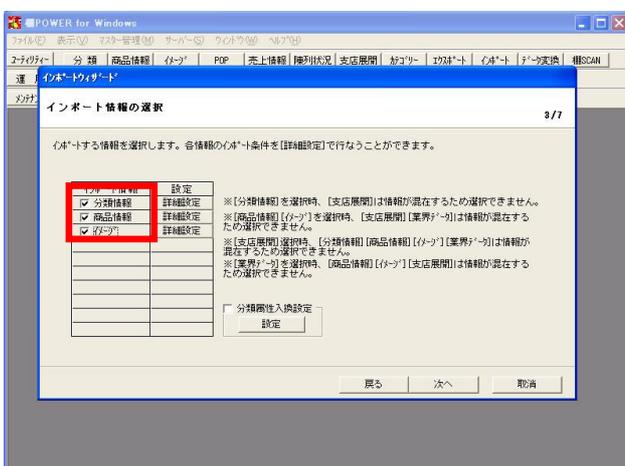
ユーティリティ・インポート をクリックします。



147. 黄色いフォルダのボタンをクリックし、インポートしたい情報の保存してあるフォルダを選択します。

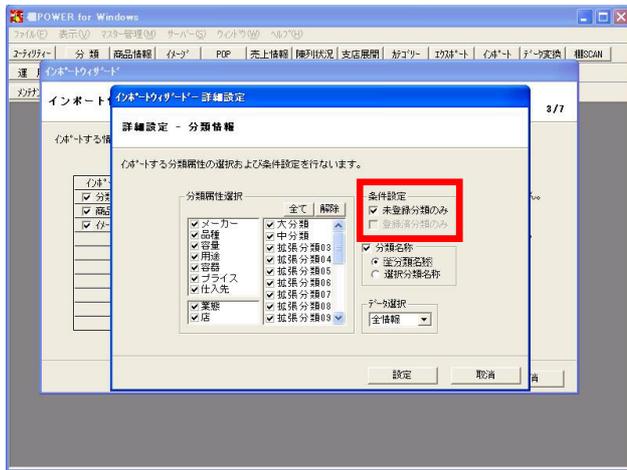
この時指定するフォルダは、複数の情報を保存しているフォルダです。指定フォルダに含まれている情報が該当情報一覧に表示されます。

ここは、あくまで情報の確認を行なう画面です。確認できれば 次へ をクリックします。



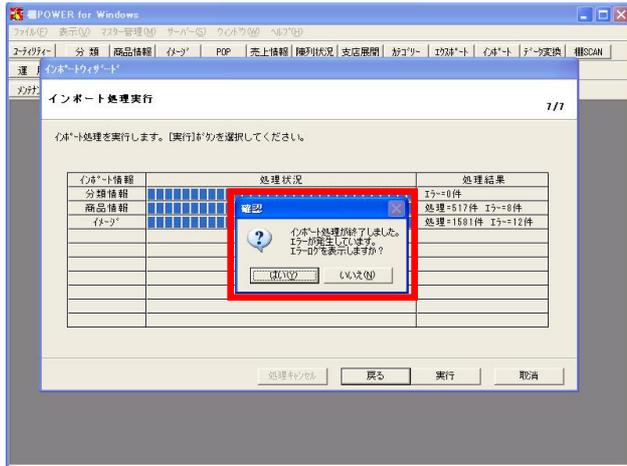
148. インポート情報の選択では、取り込みたい情報のチェックボックスにチェックを付けます。

ここでは「分類」「商品情報」「イメージ」にチェックをつけ、それぞれの 詳細設定 をクリックして取り込む範囲や条件を設定します。



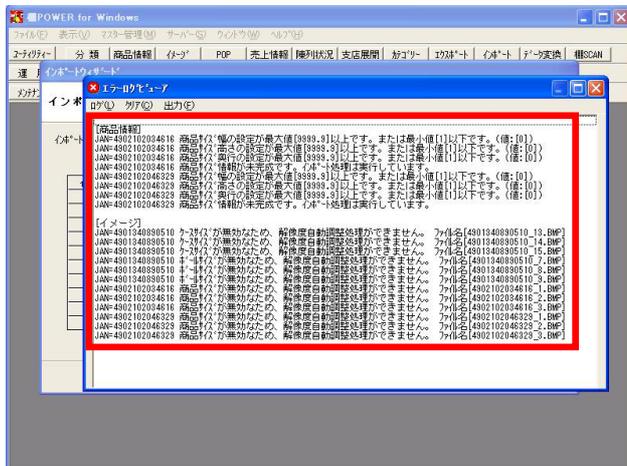
149. 詳細設定時、条件設定の「未登録～のみ」を有効にすると、登録済のものは上書きせず、未登録のもののみ登録します。（画面は分類情報ですが、商品情報、イメージも同様に条件設定が可能です。）

設定が完了したら 設定 をクリックし、各詳細設定後、次へ をクリックします。



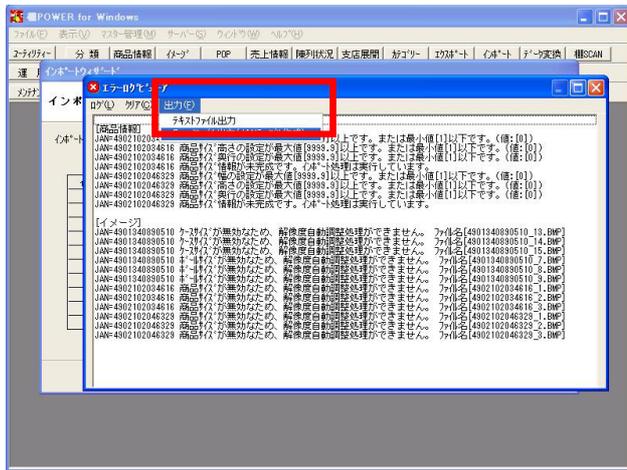
150. インポート処理実行画面 実行 をクリックすると処理が行なわれ、処理状況や処理結果を確認できます。

いずれのユーティリティ機能を利用した場合も、処理結果でエラーが発生している場合は、エラーログビューアを開き内容を確認しましょう。



151. 確認後、左図のような商品サイズに関するエラーが出ているという場合は、インポートしたファイルの該当JANコードの行を確認してみてください。

サイズが「0」などの場合に発生するエラーですので、修正後再度取り込み処理を行ないます。



152. エラーログはExcelファイル出力、またはテキスト形式のファイル出力が可能です。

該当の商品のJANコード一覧を出力する場合はExcelファイル出力を選択し、エラー内容等すべてを出力する場合は、テキストファイル出力を選択します。

エラーを確認しても対処方法が不明な場合は、サポートセンター宛にお問合せください。

尚、エラーログは各処理の実行時に上書き更新しますので、同じ機能を何度も利用した場合は最後のエラーログだけが表示されます。

また、JANコード自体がエラーとなっている場合はその商品情報は取り込まれません。

棚POWERで使用するマスター「分類」「商品情報」「イメージ」の登録方法、削除方法、修正手順について説明しました。この他に、大きなマスターとしては得意先別にプライスカードを出力する場合やPOSデータを利用して分析をする場合に活用できる「売上情報」がマスターとして存在します。売上情報の登録、活用方法については「棚POWER 操作テキスト 棚割分析編」を参照ください。

以上で「棚POWER 操作テキスト データ登録・移行編」を終了します。

- ※ 棚POWERは株式会社サイバーリンクスの登録商標です。
- ※ その他記載されている商品名、社名は一般に各社の商標および登録商標です。

棚POWER®

データ登録・移行編テキスト(Ver17.00)

2010年06月発行



発行

株式会社 **サイバーリンクス**
棚POWER事業室

江坂オフィス

〒564-0053 大阪府吹田市江の木町 17-1

コンパーノビル 8F

TEL: 06(6821)2571 FAX: 06(6821)2572

E-mail: tp-info@cyber-l.co.jp